

文部科学省委託事業

「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」

日本語補習クラスの ための学習活動案集

～台北日本人学校の実践から～



2019年12月

公益財団法人 海外子女教育振興財団

報告書刊行にあたって

弊財団は、1971年に外務省および文部省（現 文部科学省）の許可を受け、海外で経済活動を展開している企業・団体によって設立されて以来、海外赴任者・帰任者のための教育相談・情報提供や、日本人学校・補習授業校への財政上・教育上の援助等をはじめ、政府の行う諸施策および維持会員の要望に相呼応して幅広い事業を展開・実施してまいりました。

一方、日本政府においても、近年急速に発展してきた経済社会のグローバル化に対応しうる人材育成を喫緊の課題と捉えており、文部科学省では在外教育施設をグローバル人材育成拠点と位置づけて、大学・民間研究団体等の研究者と連携して評価・検証を行い、より高度なグローバル人材の育成を見据えた先進的なプログラムの開発・推進を図ることを打ち出しました。

そしてこのたび弊財団は文部科学省からの委託を受け、それらの指導体制、指導・評価方法、ICT教材の活用等の実証研究を担う「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」（略称：AG5）（委員長：佐藤郡衛・明治大学特任教授／前 目白大学学長／元 東京学芸大学副学長）を実施する運びとなりました。

その研究の一環として、2017年より、学習言語としての日本語の習得に係る課題を洗い出し、効果的に学びを進めるための日本語補習プログラムの開発を行ってまいりました。その取組の概要につきましては、AG5の成果発信サイト（<https://www.ag-5.jp/>）におきましてもお伝えしているところでありますが、この成果を海外子女・帰国子女教育に関わる多くの方々に広くご活用いただくため、今般、本プロジェクトにて開発した全ての学習活動案を掲載した本書を刊行することといたしました。

ここに、本研究開発にご尽力いただきました佐藤委員長をはじめとするAG5運営指導委員・研究員・プロジェクトメンバーの皆様ならびにご協力いただきました台北日本人学校の教職員、児童生徒およびその保護者の皆様等すべての方々に対し、あらためまして厚く御礼申し上げる次第でございます。

本書が日本語指導に携わる皆様にとりまして、子供たちが学習言語としての日本語を効果的に学ぶための手立てを考える一冊となり、今後の海外子女・帰国子女教育の発展にお役立ていただけたら、本事業の実施者として、これに勝る喜びはありません。

弊財団では引き続き、「日本人学校など在外教育施設におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発」や「日本人学校におけるグローバル能力育成のためのプログラム開発」、「南米日本人コミュニティにおける日本型教育・日本語教育の発信・普及のためのプログラム開発」などに向けて本事業を推進し、これを通じて新たに開発したプログラムや提言を国内外の教育施設へ周知・普及することにより、高度グローバル人材育成に貢献することを目指してまいります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

公益財団法人 海外子女教育振興財団
理事長 中村雅治

本書のねらい

日本人学校にも、国内の学校と同様に、日本語指導が必要な子供の在籍が増えてきています。その多くは、国際結婚家庭の子供たちです。

国際結婚家庭では、家庭によって言語使用の状況が異なります。父親が日本人の場合、就学前の子供は母方の言語に触れる機会が多いことが予想されます。使用する言語が、就学前と就学後、そして家庭と学校とで異なる場合、学校生活や学習のいろいろな場面で、子供たちに困難が生じる可能性があります。

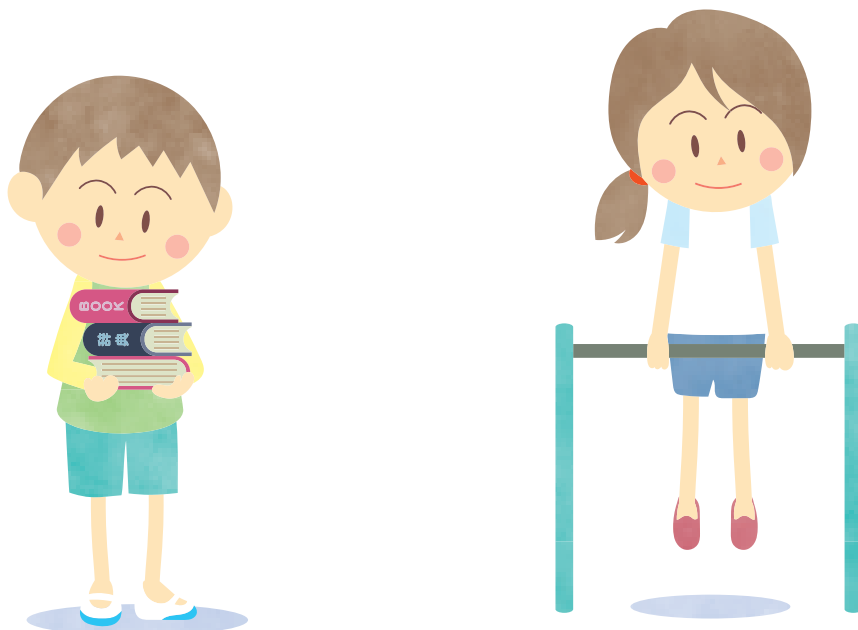
しかし、幼少期から日本語にも触れて育ってきている国際結婚家庭の子供は、適切な日本語の支援を行うことで、日本語での学習に十分に参加でき、日本語の力を伸ばしていくことが可能になります。

そのためには、具体的かつ計画的な支援が必要です。その方法の一つとして、台北日本人学校では小学1・2年生を対象に「日語補習（日本語補習）」を、週1回、放課後に35分間、年間約30回行っています。

では、その短くも貴重な時間に、優先的にすべきことは何でしょうか。

それは、少人数の子供たちと教師がたくさんやりとりしながら、個々の子供の日本語の力を把握する（できること・できないこと、知っていること・知らないこと等を確認する）ことと、この先一週間の学習に参加するための日本語の力をできるだけつけることです。

今回、開発したプログラムは、日本人学校に通う日本語以外の言語背景を持つ子供たちが、在籍クラスの学習活動に参加するための日本語の力をつけることを目的としています。台北日本人学校で行われている「日語補習（日本語補習）」をベースに作成していますが、広く世界の日本人学校に在籍している日本語指導が必要な子供たちに対して、汎用的に使用することを想定しています。



学習活動案集の概要と使い方

海外に暮らす国際結婚家庭の子供たちの日本語の課題は多様です。日本人学校に編入学する子供たちの場合、日本語が全くできないというケースは少ないと思われます。しかし、家庭内での言語使用の割合、また家庭外での「日本語コミュニティ」への参加度合いなどにより、学習活動に参加するための日本語力の獲得の程度は異なるでしょう。

国際結婚家庭の子供たちは、日本語での日常会話に問題がないため、ことばの問題はないととらえられてしまうことが多いようです。ただ、多様な日本語（書き言葉や文字・表記、相手による言葉の使い分けなど）への接触という点では、両親ともに日本人の家庭に育った子供とはその経験に大きな差があります。また、低学年では生活場面を取り上げる学習活動が多くみられますが、日常的に使われる言葉であるがゆえに「現地語」しか耳にしたことがない、ということも考えられます。普段、現地の八百屋で買い物をしていたとしても、「やおやさん」という日本語に触れることは決して多くありません。学校で学ぶ「教科用語」は日本語で獲得していても、日々の生活の中で獲得していく語彙については「現地語しか知らない」といった場合も考えられるのです。さらに、日常会話では、助詞を飛ばしたり、文末まで発話しなかったりしても発話の意図は伝わりますが、学習場面では「文・文章」として産出することが期待されます。子供が「文単位で発話できるが、会話場面なので言わない」のか「意思是伝えられるが、助詞を使って文を構成できない」のかを把握し、もし后者であれば、支援をする必要があります。「これだけ話せるのだから知っているはず」「会話ができるのだから大丈夫」と思わずに「子供たちのことば」の実態を把握する必要があります。

このプログラムは、こうした点を学級での学習に先行してケアし、日本語母語話者の子供たちとともに学ぶことを目指しています。日本語の力としては、「日常会話はできるが、学習面では課題がある（会話に問題はないが指示が通らない、質問に対する答えが教師の意図と異なる）」子供を想定しています。プログラムは、国語・算数・生活の3教科のうち、①日本語を母語としない子供たちがつまずきやすいところ、②支援をすれば十分に在籍クラスの学習に参加できるところ、③今後の学習の基礎となるため確実に理解させておきたいところ、の3点を観点として、台北日本人学校の日語補習で行われていた授業内容と国内で外国人児童への日本語支援を長く担当されている先生の意見から、各学年20回分を選択しました。

いずれも基本的には、在籍クラスでの学習に先行して行う形で計画しています。授業後の補習機会も重要ですが、「補習で追いつく」のではなく「準備をすることで日本人児童と一緒に在籍クラスで学べる」ことを目指します。「先行学習」を中心に据えることで、そこで身に付けた日本語の力をもって、在籍クラスでの授業に参加し、「わかった」「できた」という達成感や自己有用感を味わってほしいと思います。

活動案は、20分程度で実施できるように組んでいます。先に述べた通り、このプログラムは台北の日語補習を基にしています。1回35分で、授業の前後にアイスブレイクや連絡事項の伝達などの時間も必要であることを想定しています。

すべての活動案を順番どおりに実施する必要はありません。先に述べたような子供たちの日本語・学習の状況に応じて取捨選択、または修正して使用していただければと思います。その際は、日常会話の力ではなく、各プログラムの目的とする活動が日本語でできるのかを判断の基準とし

てください。例えば、2年生の「かんさつ名人になろう①」では、展開1の問いに展開3で期待される形で答えられれば、この支援は飛ばしてもかまいません。ただし、質問意図は理解しているものの単語レベルの返答になってしまうのであれば、「文で答える」という練習は必要であると考えます。同様に「かけざん」では、授業についていくには「～ずつ」を理解しておくことが必要と考え、そのためのプログラムが作られています。ここで「『～ずつ』は普段から使っているから大丈夫」と考えるのではなく、例えば「お皿にみかんを3こずつおいてください」という指示を出して確かめてください。これに独力で答えることができれば、「～ずつ」は改めて取り上げる必要はないと考えて良いでしょう。日本語補習の大切な機会ですから、不要な部分は割愛してください。また、学校行事の事前事後指導、独自の学習活動などを加えていただくことも有効です。

なお、今後教科書が改訂されても、同じような学習内容を扱う際には、本活動案を適宜利用できると考えています。

指導のポイント・留意点

日本語指導の経験のない教員の手がかりともなるように、必要に応じて、指導する「語彙」や「日本語表現」等を示しました。

○展開例〈想定した子供〉

「休み時間等の日常会話は母語話者レベルだが、授業中、指示が通らないことがある」「活動には参加しているが、まとめや振り返りが書けない、またはそれを見ると理解していないと思われることがある」といった子供たちを想定しています。

○展開例〈日本語のレベル差への対応〉

日本語力がより高い子供への指導のヒントは（△）、より日本語に困難のある子供への指導のヒントは（▼）という形で、レベル差に対応できるようにしています。

○教材等

作成者がイメージした教材ですので、入手できない場合は現地にあるものを使用して工夫してみてください。

なお、このプログラム開発は、見世千賀子が全体の代表として、日本語補習プログラムは菅原雅枝が監修し、活動案の作成は伊藤敦子氏、横溝亮氏が主に担当し、齋藤智慶氏、馬庭奈由氏にもご協力頂きました。

AG5運営指導委員会

委員長 佐藤 郡 衛

委員 見世 千賀子

研究員 菅原 雅枝

プロジェクトメンバー

代表 : 見世 千賀子 (東京学芸大学 准教授)

監修 : 菅原 雅枝 (東京学芸大学 准教授)

活動案作成 : 伊藤 敦子 (愛知県小牧市立大城小学校 教諭)

横溝 亮 (神奈川県横浜市立並木第一小学校 主幹教諭 国際教室担当)

活動案作成協力: 齋藤 智慶 (神奈川県藤沢市立長後小学校 総括教諭)

馬庭 奈由 (前 東京都世田谷区立八幡小学校 主任教諭)

実践等協力 (2017 年度～ 2019 年度) :

近藤裕敏 (台北日本人学校 校長)

宮永健次 (台北日本人学校 教頭)

高橋慶次 (台北日本人学校 事務長)

飯塚由美 (台北日本人学校 教諭・プロジェクトコーディネーター)

重山史朗 (台北日本人学校 前校長)

(台北日本人学校 教諭) (順不同)

飯田宏信 須和美由紀 高橋直子 藤原淳史 野々村謙司 小原明子

山田徳子 松浦 勝 日向絵菜 山本紗矢佳 池田さやか 黒須理恵

麻生紗緒里 平谷まり 西 麻祐 新内俊充 中村あゆみ 吉長綾

宮川古都 大濱千枝 稲木健太郎 北村潤太 辻さくら 簡碧慧

林芳如

服部美貴 (国立台湾大学)

日本語補習プログラム 小学１年

基本的には、先行授業として行う ただし※は在籍の授業後の確認でも可

教科	ページ	教科・単元	補習の目的（☆関連する教科・単元）
国語①	1	えをみてはなそう	どこに何があるかを文レベルで話す ☆生活「がっこうのこと」他
国語②	3	くちばし	問いと答えのセットがわかる
国語③	5	おもちゃとおもちゃ	拗音の読み書き
国語④	7	なつやすみのことをはなそう	発表者に対して質問ができるようになる ☆国語「おもいだしてはなそう」
国語⑤	9	かたかなをみつけよう	ひらがなとかたかなの違いに気づき、かたかなに関心をもつ
国語⑥	11	じどう車くらべ	「はたらく車」の仕事とつくりを具体的にイメージすることができる
国語⑦	13	たぬきの糸車①	昔の日本の家屋、状況設定について知る
国語⑧	15	たぬきの糸車②	登場人物の行動を理解し、気持ちを想像する
国語⑨	17	日づけとよう日	助数詞の確認 ☆国語「かずとかんじ」
算数①	19	なんばんめ	「何人」「何人目」の違いが分かる
算数②	21	たしざん	「増える」ということを体験を通して理解し、足し算の概念理解につなげる
算数③	23	ひきざん	「減る」ということを経験を通して理解し、引き算の概念理解につなげる
算数④	25	20 までのかず	10 のまとまり
算数⑤	27	おおきいかず①	10 の位、1 の位の意味が分かる
算数⑥	29	おおきいかず②	100 までの数と大きな数の計算
生活①	31	がっこうのこと①	校内の場所に関する語彙の確認
生活②	33	がっこうのこと②	見てきたことを伝える（どこに何があるか、どこで誰が何をしていたかが言える）※
生活③	35	〇〇さがし	見つけたものを報告する※ ☆国語「しらせたいな、みせたいな」他
生活④	37	かんさつする	特徴を表す語彙の確認 ☆生活「〇〇さがし」、国語「おおきくなった」
生活⑤	39	じぶんの一日を見つめよう	時間の言い方、時計の読み方を理解する ☆算数「なんじなんぷん」

日本語補習プログラム 小学2年

教科	ページ	教科・単元	補習の目的（☆関連する教科・単元）
国語①	41	たんぽぽのちえ	たんぽぽの成長のイメージを持つ
国語②	43	かんさつ名人になろう①	観察の視点を知る ☆生活「おおきなあれ わたしの やさい」他
国語③	45	かんさつ名人になろう②	（生活科と関連させ）文で表現できる ☆生活「おおきなあれ わたしの やさい」他
国語④	47	スイミー①	比喩
国語⑤	49	スイミー②	行動から気持ちを読み取る
国語⑥	51	大すきなもの、教えたい①	宝物紹介（1年時に既習）の復習を通して、宝物を紹介するメモを作る ☆国語「あったらいいな こんなもの」、生活「つたえたいな」他
国語⑦	53	大すきなもの、教えたい②	メモをもとに発表原稿を作る ☆国語「あったらいいな こんなもの」、生活「つたえたいな」他
国語⑧	55	主語・述語	主語・述語の意味が分かる、探せる
国語⑨	57	お話のさくしゃになろう	「誰が何をした」のレベルの文を組み合わせ、文章が書ける
国語⑩	59	しかけカードの作り方	順序のことば（まず、つぎに…）がわかる
国語⑪	61	スーホの白い馬①	物語の背景がわかり、関心を持つ
国語⑫	63	スーホの白い馬②	主人公の行動や様子から気持ちを読み取る方法がわかる
算数①	65	ひっ算①	位をそろえて筆算の式が書ける
算数②	67	ひっ算②	計算の仕方（1の位から10の位へ）
算数③	69	1000より大きい数	10進法の仕組みがわかる、数が読める、数が書ける
算数④	71	三角形と四角形①	直線、角、辺、頂点の意味が分かる
算数⑤	73	三角形と四角形②	図形の特徴がわかる
算数⑥	75	かけ算	「〇個ずつ」「いくつ分」の意味が分かり、かけ算の概念がわかる
生活①	77	もっと なかよし まちたんけん	インタビューの練習をする
生活②	79	あしたへ ジャンプ	自分の経験を新聞・ポスターとしてまとめる

1年国語①

「えをみてはなそう」

関連する教科単元

生活「がっこうのこと」他

1 課題と目標

想定される課題

教科書にでてくる様々な生き物について犬や猫は知っていても、鹿や狼などの名前は知らないことが予想される。また、単語レベルや二語文で答えることはできても、正しく助詞を使って話すことは難しいことが予想される。そのため、この学習では「～がいます。」「～にいます。」のように正しい表現で話すことを指導したい。

本時の目標

- 絵を見て何がいるかを、主語と述語の文を使って話すことができる。
- 位置を表す言葉「上・下・左・右・前・後ろ」について知る。

2 指導のポイント

- 子供同士で、問いの文「なにがいますか」「どこにいますか」の基本文型を使ってやりとりできると良い。
- 語彙：(上・下・左・右・前・後ろ)
- 表現：「なにがいますか。」⇒「がいます。」「どこにいますか。」⇒「にいます。」

3 使用可能な教材・ワークシート

- 市販の「絵じてん」を使用しても良いが、上下左右前後を使っの活動を考えると、教科書のほうが使いやすい。

- 新しい単語や言葉と出会うときは、教科書に直接書き込みながら学習を進めています。

例：くじらの絵があったらそこに「くじら」と書き込む。

- 「どこにいますか」は少し難しいです。日本語に慣れていない子供には、「なにがいますか」を中心に学習を進めるといいと思います。

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
2分	1.教科書を見て、何があるか出し合う。(ざっくばらんに) T：何がいますか。 C：ぶた、くま、うし…	- 子供に自由に動物を出させる。 ▼動物カード等を使って、動物の名前を確認する。 - 教科書の拡大コピーを準備し、動物の横に名前を記入する。	教科書 動物カード
5分	2.基本文型を使って、基本のやりとりを見せる。 教師が子供一人ずつに「なにがいますか。」と聞く。	△教師と子供代表で文型を使って、やりとりを見せる。 文型カードを準備する。(文型を使って発表する。)	文型カード
5分	3. 基本文型 「どこにいますか。」 ⇒「 にいます。」 「さるはどこにいますか。」 ⇒「木の上にあります。」 等 基本のやりとりを見せる。 教師が子供一人ずつに「さるはどこにいますか。」を聞く。	△教師と子供代表で文型を使って、やりとりをする。 文型カードを準備する。(文型を使って発表する。)	文型カード
8分	4.教科書の絵を見ながら、ペアで自由に質問をしあう。 「なにがいますか。」 ⇒「さるがいます。」 「どこにいますか。」 ⇒「木の上にあります。」	基本文型を押さえ、子供同士でやりとりができるようにする。	

1年国語② 「くちばし」

1 課題と目標

想定される課題

「くちばし」という題名自体が難しく理解しにくいことが予想されるので、挿絵と照らし合わせながら授業を進めたい。また、子供たちにとって初めての説明文なので、問いの文と答えの文に注目しながら学習を進められると良い。そして、「問い」の次には「答え」があることを感覚的にとらえられるようにする。

「問い」と「答え」の文章の形を知り、自分でクイズをつくり、友だちとクイズの出し合いができるようになることが良い。

本時の目標

- 「問い」と「答え」の形式について知る。
- 問題作りをし、友だちに「動物クイズ」を出したり、答えたりすることができる。

2 指導のポイント

- 「動物クイズ」では、特徴のある動物を準備しておく。
- 「これは なんの ～ でしょう。」⇒「(これは) ○○の ～ です。」の基本文型を使って、子供同士がやりとりできると良い。
- 先行学習では、基本文型に慣れることを意識し、クイズづくりは在籍クラスでできるようにする。
- 語彙：くちばし
- 表現：「これは なんの ～ でしょう。」⇒「(これは) ○○の ～ です。」

3 使用可能な教材・ワークシート

- くちばしを扱った絵本など ⇒ 読み聞かせに良い。

教科書では、「ほそくてながいくちばし」のような複合語が出てきます。「ほそい」、「ながい」のように単語で形状を説明することから始めました。その後、「ほそい」プラス「ながい」は「ほそくてながい（ほそながい）」のような複合語の作り方を全員で確認しました。

4 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
2分	1.「くちばし」の確認をする。 T：これは何でしょう？	国語教科書の挿絵（写真）を使って「くちばし」という言葉を確認する。	教科書
2分	2.教師からクイズを出す。 T：黒いくちばしです。これは何のくちばしでしょう。 C：(これは)、カラスのくちばしです。	- 教師からクイズを出す。 - 丁寧な言葉で答えることができるようにする。	カラスのくちばしの拡大写真 カラスの全体写真
4分	3.表現 「これは なんの ～ でしょう。」 ⇒「(これは) ○○の ～ です。」 基本のやりとりを見せる。 T：太い足です。これは何の足でしょう？ C：(これは)、ぞうの足です。	△教師と子供代表で文型を使って、やりとりを見せる。 - 文型カードを準備する。(文型を使って発表する。)	文型カード (基本文型を書いたカード)
4分	4.どうぶつの拡大写真を見せる。 基本文型 「これは なんの ～ でしょう。」 ⇒「(これは) ○○の ～ です。」	うさぎの耳、きりんの首、ぞうの鼻 等、特徴的な動物の拡大写真を準備し、基本文型を使って「問い」と「答え」の練習を繰り返し行う。	どうぶつの拡大写真
8分	5.ペア学習をする。 ペア学習のやりとりを確認する。	- 基本文型を押さえ、子供同士でやりとりができるようにする。 △自分で動物クイズをつくり、友だちに出題をする。	

※ 先生と子どもの位置関係によっては、子どもの答えの「これは」が不適切になることがあります（例：先生が教壇に立ち、写真を示しながらした質問に対して、子どもが答える場合）。この単元は、指示語を学ぶことを目的としていませんので、「それは」を指導する必要はありませんが、不適切な答えを繰り返させることのないように注意してください。

1年国語③ 「おもちゃとおもちゃ」

1 課題と目標

想定される課題

生活の中で拗音を使った言葉には慣れているが、表記させると「きゅうきゅうしゃ」を「きうきうしゃ」と勘違いしている子供もいたりする。正しい表記と正しい発音にたくさん触れる活動を通して、拗音に慣れることができるようにしたい。

本時の目標

- 声に出すことで拗音の発音の仕方に慣れる。
- 拗音は1拍で発音することを理解する。
- 拗音の書き方を知る。

2 指導のポイント

☆ 授業後の復習として実施しても良い。

- 「おもちゃ」はひらがな4文字で4拍であるのに対し、「おもちゃ」はひらがなが4つあっても3拍であることを確認する。
- 拗音のつく言葉をすぐに思い出すことは難しいので、事前にイラスト等を集めておくことで学習がスムーズに進む。文字を読むことができる子供には、文字だけを見せて確認する。
- 語彙：おもちゃ、おきゃく、ぎょうれつ、じてんしゃ、あくしゅ、としょかん（拗音を含む言葉）

3 使用可能な教材・ワークシート

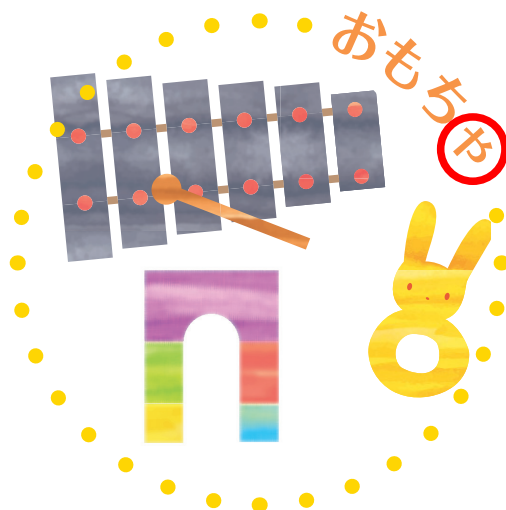
- 拗音に関するドリル・プリント など

拗音、促音などは学年が上がっても十分に読んだり、書いたりすることができないことがあります。今回の学習で読むことに慣れるようにしたいです。実際にノート等にかくとなるとレベルが格段に上がるので、余裕があるときのみ書く作業を入れると良いと思います。

4

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1.「おもちゃ」と「おもちゃ」の違いを見つける。	- 表記の違いを確認する。 △表記上の違いが分かったうえで、読み方を確認する。 - 言葉の違いについても確認をする。	教科書
7分	2.教科書「おもちゃとおもちゃ」の中から小さい「や」「ゆ」「よ」のつく言葉を見つける。	- 教科書の中から拗音のつく言葉を探す。 - 全員で確認をする。 - 読みの練習をする。	教科書の拡大掲示
8分	3.自分が知っている拗音のつく言葉をあつめる。	△拗音のつく言葉をノートに書いて集める。 ▼教室であつめた言葉を読んだり、ノートに写したりする。 - 拗音を書く練習をする。 - 集めた言葉は教室内に掲示をしておき、読みの練習をしたり、付け加えたりしながら、繰り返し練習ができるようにする。	



1年国語④

「なつやすみのことを
はなそう」

関連する教科単元 国語「おもいだしてはなそう」

1 課題と目標

想定される課題

経験したことは印象に強く残り、話しやすい。しかし、強く心に残ったことから話し出すため、順序性がなく、正しく相手に伝わりにくいことが多い。ここでは、順序を表す言葉とその正しい使い方を知らせて、順序を意識して話せるようにしたい。そして、在籍クラスでの発表会等でも相手にわかりやすく話せたという達成感を味わわせたい。

本時の目標

- 夏休み（昨日）のことを3文程度で話すことができる。
- 友だちの発表を聞いて、質問ができる。

2 指導のポイント

- 発表の仕方は、表現を提示し、3文程度で話をするようにする。
- 文章の切り方が分からない子供が多いので、単文で話をするようにする。
- 質問は、この先の学習でも繰り返し使うことができる。いくつかの質問の仕方を理解できるようにする。
- 夏休みに限らず、授業の初めに一言スピーチなどを取り入れ、日常的に話す活動を取り入れると良い。
- 語彙：どこ、だれ、なんにん、なに
- 表現：「なつやすみ（きのう）に〇〇しました。」
「だれといきましたか？」（質問の言葉）

在籍クラスでも日常的に発表活動を入れることで、友だちの話し方や質問の仕方を身に着けることができます。補習クラスに来室したときも、授業の初めに「昨日は何をしましたか？」と質問タイムを取ると良いと思います。発表の仕方も子供の見えるところに掲示をしておきます。

3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1.モデルとなる教師の発表を聞く。 - 教師は3文程度で夏休み(昨日)のできごとを話す。 T：夏休みに、友だちと海に行きました。 海でバーベキューをしました。 とても美味しかったです。 - 教師は発表後、子供に質問をする。 T：先生はどこへ行きましたか？ 何をしましたか？ 等	- 子供が視覚的にとらえることができるように、話す内容を画用紙等を書いておき、子供に見せながら話をする。 - 子供が教師の発表を聞き取ることができているか確認をするために、質問をする。 △教師の発表を再話させても良い。 ▼子供がよりイメージできるように、イラスト、写真等を見せる。	話す内容を書いた画用紙等
5分	2.質問の言葉を知り、質問の練習をする。 教師が再度発表をし、子供が質問をする。	- どこ、だれ、なにカードを使って子供に質問を促す。 △質問カードを使って質問をする。 - 子供の質問をカードに記録する。 ▼同じ質問を繰り返し練習する。	どこ、だれ、なにカード 質問カード
10分	3.代表の子供が昨日の出来事について発表し、質問する。 C1：きのう、ともだちと こうえんで あそびました。 おにごっこを しました。 C2：だれと あそびましたか。 C1：田中さんと あそびました。	△教師の発表をモデルに、昨日の出来事を短い文章で発表する。 どこ、だれ、なにを使って子供が質問をする。 2人組で発表、質問をしても良い。 ▼発表、質問が難しい子供は、教師と一緒に発表の練習をする。	

1年国語⑤ 「かたかなをみつけよう」

1 課題と目標

想定される課題

日本語以外の環境で生活していると、日本語の表記に触れる機会は限られるため「かたかなで表記する語」を知っていたとしても、その表記自体は目にしていないことが予想される。このため、かたかなで表記すべき語彙は学校で明示的に指導する必要があると考える。

また、ひらがなと形が似ているかたかなもあり、認識することやひらがなとの使い分けが難しいと思われる。

本時の目標

- かたかなに気づき関心をもつことができる。

2 指導のポイント

- ここでは、校内でかたかなによる表記が多い場所を活動場所として選び、かたかな探しの体験活動を入れることで、かたかなによる表記があることやどのような物や場所がかたかなで表記されているかに気づかせたい。そのため、かたかな探しの場所としては、かたかな表記の多いコンピュータ室や理科室等で活動することが望ましい。

3 使用可能な教材・ワークシート

- 市販のかたかなカード

この授業では、かたかなという表記方法があるということに気づくことをねらいとして、定着は宿題等でおこなうと良いと思います。その際、長音の表記についてはひらがなと異なるので、授業でしっかり教えるように配慮しています。

かたかなを読んだり書いたりする頻度はひらがなに比べると低いので、普段の生活の中でもかたかなが出てきたら「これは〇〇だからかたかなで書くね。」と言いながら、意識付けするようにしています。

4

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
2分	1.かたかなを知る。 かたかな一覧表を見せて、かたかなについて知らせる。 T：これをかたかなと言います。 C：見たことある！	かたかながどのような文字なのかを知らせる。	かたかな一覧表
10分	2.かたかな探しをする。 コンピュータ室に行き、かたかなで書いてあるものを探す。 T：かたかなを探してください。 探したら、かたかなで書いてあるものを持ってくる。	- かたかな表記の多い教室に連れていくと良い。 ここではコンピュータ室をあげているが、かたかなで表記したものが多ければこの部屋でも良い。 - 持ってこられないものは、タブレットで写真を撮らせる。	タブレット
8分	3.かたかなで書いてあるものを紹介する。 T：見つけたものを発表してください。 T：これらの物はかたかなで書きます。	- タブレットで撮った写真はプロジェクターを使って見せることで、共有を図る。 - かたかなで書いてあるものを見せながら「これはかたかなで書くね。」と教えることで、かたかなを認識させる。 - かたかなを適切に使えるようにしていく。	



1年国語⑥ 「じどう車くらべ」

1 課題と目標

想定される課題

様々な自動車を目にすることはあっても、自動車の名前を意外に知らないことがある。自動車カードや車のおもちゃ等を使って自動車の名前を確認しておくが良い。「じどう車くらべ」を学習する中で、「しごと」と「つくり」の内容を教科書から読み取することは難しい。この補習をとおして、「しごと」と「つくり」のイメージがわかるようにしたい。

本時の目標

- 自動車の「仕事（はたらき）」と「つくり」についてのイメージを持つ。

2 指導のポイント

- 例えば「乗用車」と救急車のように「働く車」について比較することで、違いをイメージさせる。つまり、教科書とは逆のアプローチで「つくり」から入って「しごと」に結びつける授業の流れになっている。
- 教科書に出てこない車と比較させると良い（救急車・ごみ収集車）

「じどう車くらべ」は子供にとって、とても楽しい単元です。私は単元の最後に子供の知っている車で自動車図鑑を作っています。

それから、「クレーン車」の場面では、「うで」、「あし」などの比喩表現が出てきます。自分の腕、クレーン車の「うで」と比べながらどういう意味かを考えることができれば良いと思います。

100円ショップ等で車のおもちゃを簡単に購入することができるので、導入で見せてさわることで、その車をイメージさせています。「つくり」については、教科書の挿絵だけではよく分からないこともあるので、写真やイラストを付け足して視覚的に支援しています。

3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
7分	1.乗用車と救急車を比べて、違いを発表する。 T：この車は何ですか？ C：きゅうきゅう車です。 T：乗用車にはないけど、救急車にあるものは何ですか。 C：ベッドです。	- 乗用車と比較する車の名前を、救急車のミニカーまたは写真を見せて確認する。 - 正式な名称を押さえておく。 - 救急車の内部がよくわかる写真を提示する。 - できるだけペアで聴き合うようにする。 △「救急車には〇〇があります。」という表現で話させる。 ▼写真を指差すことで、違いを伝えることができる。	救急車の模型 救急車の写真
13分	2.乗用車と救急車のつくりが違う理由を考える T：乗用車と救急車はどこがちがいますか。 C：サイレンがついている。ベッドがある。 T：どうして〇〇がありますか。	▼1人で考えることができない子供はペアで理由を考える。 教師と子供のやりとりを通して、救急車の「仕事」と「つくり」についてイメージを持つことを大切に、語彙としては在籍クラスで確認する。	



1年国語⑦ 「たぬきの糸車」①

1 課題と目標

想定される課題

海外で生まれ育った子供の中には、日本の昔話になじみがない子供もいることが予想される。先行学習でたぬきの糸車の物語の情景を思い浮かべることができるように学習を進めたい。

本時の目標

- 昔話に出てくる語彙を理解し、昔話の情景をイメージすることができる。
- 登場人物（おかみさん、たぬき）がわかる。

2 指導のポイント

- 子供が作品背景をより理解できるよう、視覚的（写真、イラスト）支援を準備する。
- 先行で教科書を扱うが、繰り返し同じ教材を扱うことで、子供は作品の内容をより理解することができる。
- 語彙：おかみさん、糸車、しょうじ

3 使用可能な教材・ワークシート

- 発達段階や国語教材・他教科との関連を考えた作品選定された文庫など。10分程度で読むことができるものは、読み聞かせにも子供が自分で読むにも読みやすい。

たぬきの糸車は子供たちにとって楽しい物語です。昔話の情景やおもしろさを味わうことができたら良いと思います。教科書の挿絵を利用して、物語の順番を考えさせると、子供の理解度も知ることができます。私は、授業の中でたぬきの糸車を学習しながら、その他いくつかの昔話も紹介しています。

4

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
10分	1.教科書の挿絵を見ながらやりとりをする。 T：気づいたことを発表しましょう。 C：ぼくの家とちがうよ。	- 子供が作品背景を理解できるよう、絵本があるとさらに良い。昔の家屋の写真なども活用する。 - 今とちがうところに着目させる。	教科書の挿絵 昔の家屋の写真（土間・障子）
10分	2.教科書の挿絵を見ながらやりとりをする。 T：気づいたことを発表しましょう。 C：これ、おばさん？おばあさん？ C：これは犬？ T：この女の人は「おかみさん」です。 この動物は「たぬき」です。 C：服がちがう。 C：おじいちゃんの家にあった！	- 教科書の挿絵に出てくるおかみさんとたぬきに着目させる。 「おかみさん」と「たぬき」の話だということをおさえる。 - 挿絵の中に出てくる道具の糸車は、祖父母の家で見た経験があるかもしれない。 - 祖父母の家で見た、もしくは古い写真で見たという経験から、昔の話であることにつなげたい。	



1年国語⑧ 「たぬきの糸車」②

1 課題と目標

想定される課題

日本の昔話については、本で読むことが少ないと予想されるが、挿絵を見て自分が感じたことは単語レベルでも話することができると思われる。そこで、挿絵を手掛かりに、あらすじを推測することにより、物語の大筋をつかむことを目標としたい。

本時の目標

- 挿絵から物語のあらすじを推測することができる。
- 物語のあらすじを理解する上で重要な言葉を知る。
- 登場人物の行動を理解し、気持ちを想像する。

2 指導のポイント

- 挿絵は教科書の挿絵を使うが、順番は物語順にしないで、その絵を見て感じたことや質問したいことを自由に聴き合わせる。その中で登場人物である「たぬき」「おかみさん」や「糸車」という重要な言葉に着目させていく。
- 挿絵からの推測なので、子供の発言を訂正したり修正したりしないで「どうしてそう思ったの」と問いかける程度にする。
- 物語のあらすじを理解する上で重要な言葉「おかみさん」「たぬき」「糸車」については、写真やイラストを見せて視覚的に理解させる。
- 語彙：たぬき、おかみさん、糸車
- 表現：「～だと思います。」「～からです。」

この学習が近づいてきたら教室に昔話の絵本を、何冊か用意しておくといいと思います。

読書環境や読書レベルが子供により異なると思うので、その子供に合ったレベルの本を手にするような環境を設定してあげることも重要だと思います。

3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルが高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	1.物語の挿絵を見て、登場人物の確認をする。 T：この人は誰ですか。 C：おんなの人。 T：だれだっけ？覚えていますか。 C：おかみさん？	質問されたら「たぬき」と正しい言葉を教える。同じように「おかみさん」「糸車」についても、子供に質問されたら答える。	2 場面の挿絵(大)
5分	2.全部の挿絵を見て、お話のあらすじになるようにペアで並び替える。 T：お話の順番を考えてならべましょう。	- 教科書の全部の挿絵を見せる。 - 子供が並べやすいように、挿絵を小さくしたカードを配布して机の上に並べさせる。 - 一番初めの山奥の一軒家の挿絵は情景描写なので使わない。	教科書の挿絵(小)
8分	3.並び替えたものを発表する。 T：どうしてその順番にしましたか。 C：さよならしてる。 T：さようならをしているからですね。	- 挿絵からの推測にもとづくあらすじの再生なので、間違っても直さない。 △根拠が言える子供には言わせる。そのとき「～からです。」と言う表現を教える。	
4分	4.教科書の挿絵を見て正しく並び替える。	あらすじ順を確認させて、絵の中に何回も出てきたのが、「たぬき」「おかみさん」「糸車」であることに着目させる。	

1年 国語⑨

「日づけとよう日」

関連する教科単元 国語「かずとかんじ」

1 課題と目標

想定される課題

日付の特殊な読み方は一度では覚えることができない。授業の前に毎時間確認することで、自然に身につくようにしたい。八日（ようか）と二十日（はつか）を混同している子供が多い。また、教科学習でよく耳にする助数詞については曖昧である。学習をする上で必要と思われるので、ここで頻度の高い助数詞についても併せて取り上げておく。

本時の目標

- 日付「一日（ついたち）、二日（ふつか）…」を読み、正しい読み方をすることができる。
- カレンダーの月日を読むことを通して、生活と結びつけて考えることができる。

2 指導のポイント

- 日付の読み方は、特殊な 1 日～10 日、20 日を取り上げて指導する。また、他教科で使用頻度が高く読み方が数によって変化する「ほん」「ひき」を特に取り上げて学習させる。それにより、文章題の答えの助数詞の書き方も意識させたい。
- 語彙：一日（ついたち）、二日（ふつか）、三日（みっか）、四日（よっか）、五日（いつか）、六日（むいか）、七日（なのか）、八日（ようか）、九日（こののか）、十日（とおか）、十四日（じゅうよっか）、二十日（はつか）、二十四日（にじゅうよっか）

3 使用可能な教材・ワークシート

- （一例）「ぷりんときっず」……カレンダーの読み方を使用。

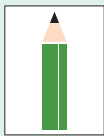
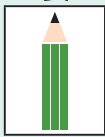
<https://print-kids.net/print/other/calendar-yomikata/>

補習クラスでは、日付の読み方は黒板横に常に掲示をし、いつも目に触れるようにしている。日付・曜日に慣れてきたら「おととい」、「きのう」、「きょう」、「あした」、「あさって」も学習し、「きのうは○曜日です」、「あさっては○にちです」のように学習を発展させるようにしています。

算数で使用頻度が高く読み方が数によって変化する「ほん」「ひき」を特に取り上げて学習させることにより、算数の文章題の答えにつける助数詞の書き方も意識させたいです。

4

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1. 拡大力レンダーを準備し、日付の読み方を確認する。 T:「一日」は何と読みますか？	- 日常生活を意識させるために、実際の力レンダーを使用する。 △日付を正しく読むことができる子供は、黒板等にかかせてもいい。 - 日付ひとつずつを、文字と読み方をセットで確認をする。	日付カード
7分	2. 友だちの誕生日を確認し、日付を読む。	- カレンダーに書かれた友だちの誕生日を確認する。 - ワークシートに記入し、読み方の練習をする。 例 ○○くんの誕生日は五月（ごがつ）一日（ついたち）です。	日付カード
8分	3. 数と漢字で学んだ助数詞について再確認するため、ゲームを行いながら、正しく助数詞を読む。 ゲームのやり方 ① 表にイラストを描いたカードを用意して、裏を向けて重ねる。 ② 子供は助数詞を使って数を答える。 T: カードをめくって数を読んでください。 C: いっぽんです。 	- 表にイラストを描き、裏には何も書いていないカードを用意する。 表  裏  - 取り上げる助数詞は、算数でよくつかわれるものを入れる。 - 発音が変わるカードを意図的に入れる。 例 1 ぽん、3 びき 等々	

1年算数① 「なんばんめ」

1 課題と目標

想定される課題

日本人児童なら家庭生活で聞き慣れている数の表現も、非「日本語母語話者」の子供は学校の授業で初めて接することになるケースが多い。日本語での数字の読み方なども十分に使えるとは限らない。日本人児童と同じ時間では、それらの表現が定着しにくい
ため、授業に先行して指導する必要があると思われる。

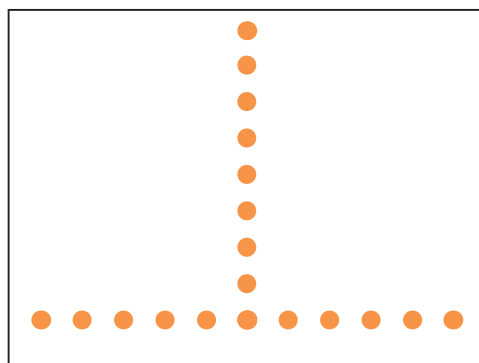
本時の目標

- ・ ○人、○人目の違いがわかる。
- ・ 前・後・上・下・左・右について知る。

2 指導のポイント

- ・ 人数を表す助数詞が変則的である点に注意する。
- ・ 助数詞は一度では覚えられないので、あまり正確さにこだわらず、助数詞だけを取り上げて指導しない。
- ・ 語彙：位置（まえ、うしろ、うえ、した、ひだり、みぎ）

ワークシート例



- ・ 「○人」と「○人目」は意味するものが違いますが、「○番」と「○番目」は同じ意味になってしまいます。子供の混乱を避けるためにも、この点について指導ではあまり深入りしない方が良いでしょう。
- ・ 時間にゆとりがある時は、子供にルーツとなる言語の数え方を教えてもらうのも面白いです。教師が自分の言語に興味を持ってくれていることが嬉しいのか、とても生き生きとした表情で教えてくれます。

3 展開 (指導上の留意点: △日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1. 順序の表現「前から○人」を活動を通して学ぶ。 子供を一行に並んで座らせる。 T: 前から3人、立ってください。 T: 後ろから6人、立ってください。	- 文型カード「まえから○にん」を提示する。 ▼立てなければ、教師が「ひとり、ふたり、さんにん」といいながら立たせる。 「前から○人」を定着させるため、2回は行う。	文型カード
5分	2. 順序の表現「前から○人目」を活動を通して学ぶ。 1と同じ流れで「○人目」。 T: 前から6人目、立ってください。 T: 後ろから3人目、立ってください。	- 文型カード「まえから○にんめ」を提示する。 ▼立てなければ、教師が「ひとりめ、ふたりめ、さんにんめ」といいながら立たせる。 「前から○人目」を定着させるため2回は行う。	文型カード
10分	3. 問題を通して、位置と順番の理解を確認する。「上から○番目」「左から○番目」の表現を学ぶ。 <子供とのやりとりの例> T: 上から3個目、赤で塗ってください。 右から2個目、緑で塗ってください。 T: みんな同じになりましたか。確かめましょう。	- 黒板に拡大したワークシートを貼り、「うえ、した、ひだり、みぎ」の語句カードも該当する場所に併せて提示する。 ▼位置の言葉が定着していない場合、上下左右が書かれたワークシートを配布する。 - 最後にもう一度問題文を言って、全員で確認をする。	ワークシート 語句カード

1年算数② 「たしざん」

1 課題と目標

想定される課題

足し算の場面で登場する語彙「ぜんぶで」「みんなで」などの語彙は、日常生活でよく耳にすることはある。しかし、それらの言葉から『ぜんぶ』だから合わせて足す。」というように、足し算をイメージすることは難しいと思われる。そこで、この單元では具体物を使って、足し算の概念を理解させたい。

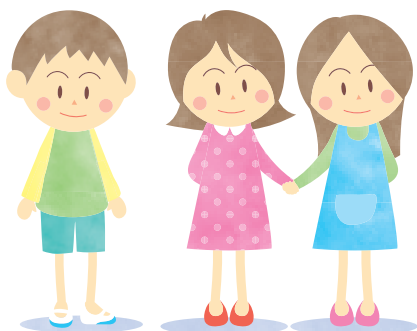
本時の目標

- 具体物の操作活動を通して、「ふえる」の意味がわかる。
- 「あわせて」「ぜんぶで」「みんなで」「ふえると」等の用語の意味を理解する。
- 足し算の読み方を知る。

2 指導のポイント

- 具体物を操作することで、初めの数より多くなることから「増える」というイメージを持たせる。そして、初めの数より増えるから、足し算で計算することに繋げる。
- 数によって言い方がかわる助数詞を使わないことで、足し算の概念を理解することの負担を減らす。

日本語の助数詞は変則的ですが（例：ひとり、ふたり、さんにん、よにん、ごにん…）、子供の実態に応じてあまり深入りしないようにしたほうが良いと思います。



3

展開

(指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
7分	1.「増える」ということを、体験活動（電車ごっこ）を通して知る。 ①電車の中には1人の子供が入る。 電車の中に何人いるか確認して発表する。 ②電車に3人の子供が入る。 入った子供の数を確認して発表する。 ③電車の中の人数は、何人になったのかを確認して発表する。	- 電車ごっこ用のひもは、子供が4人入るといっぱいになる長さにしておく。 3人乗ったことで体感的にも増えたことを理解させる。 - 初めに電車に乗っていた子供の数、次に乗った子供の数、それらを合わせた人数を板書する。	電車ごっこ用のひも
5分	2.電車の中の人数の増え方をブロックで表す。 ① 3 ④ 	- 数字と同じ数だけブロックを並べさせる。 - 数字とブロックの数がわかり易いように、数字の下に並べさせる。 - 左の数1と右の数4を比べて、初めの数より増えたことを理解させる。 そのために1と4を丸で囲む。	ブロック
5分	3.足し算の式の書き方と意味を知る。 ① + 3 = ④ 	「初めより人の数が増えた。増えるから足し算。1たす3は4。」と言いながら $1 + 3 = 4$ と書く。	
3分	4.類題を解く。 電車ごっこの挿絵を見て、初めに電車に乗っていた人数と乗った人数を数えて立式する。	類題を解かせることで、理解度を確認する。	電車ごっこの絵

1年算数③ 「ひきざん」

1 課題と目標

想定される課題

引き算の場面で登場する「とると」「のこりは」「ちがひ」等の言葉から数が減ることをイメージして、残りを求めれば良いことに気づくことが難しい。そのため、ここでは具体物の操作活動を取り入れることにより、数が減るから引き算で求めれば良いことを授業に先行して行う。

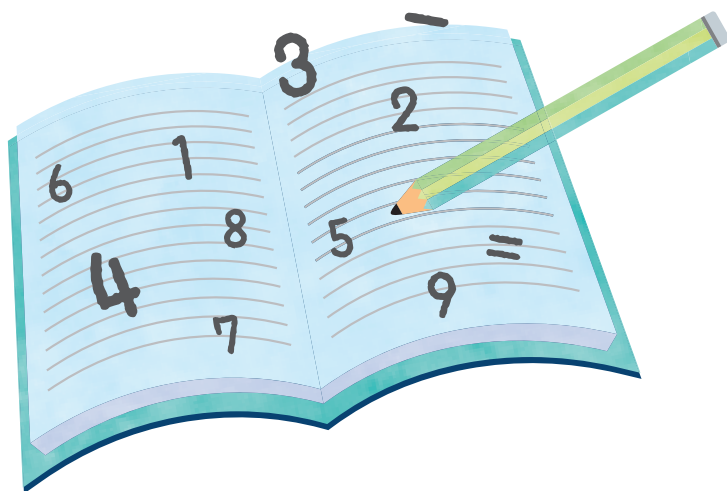
本時の目標

- 引き算の意味を知る。
- 引き算の式が立式できる。

2 指導のポイント

- 具体物を操作することで、残った数は初めの数より少ないことから「減る」というイメージを持たせる。残った数は初めの数より減るから、引き算で計算することに繋げる。

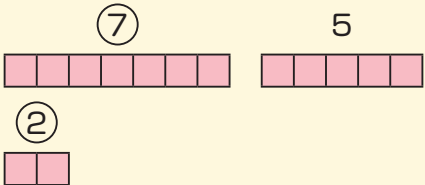
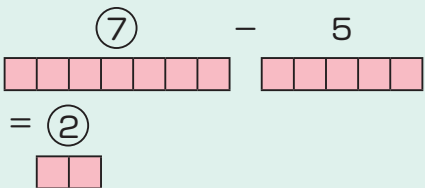
具体物や半具体物を使って、子供たちの頭の中に「減る」「少なくなる」ということを映像のように残せると良いと思います。ひき算を表す日本語はたくさんありますが、状況をイメージできると、立式につながります。数字やことばだけでなく、実際に子供たちが活動し、体験することは意味のあることだと考えます。



3

展開

(指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
7分	1.「減る」ということを、体験活動（買い物ごっこ）を通して知る。 ①店やとお客の役を決める。 ②お客はカードを引いて、決められた数だけ買う。 ③残った品物の数は、何個になったのかを確認して、発表する。	- 購入する数は、できるだけ5以上にすることで、残った数が減ったことを実感させる。 - 店にあった品物の数、購入した数、残った数を板書する。	買い物ごっこの店で売る品物
5分	2.店の品物の減り方をブロックで表す。 	- 数字と同じ数だけブロックを並べさせる。 - 数字とブロックの数が分かり易いように、数字の下に並べさせる。 - 左の数7と右の数5を比べて、初めの数より減ったことを理解させるために、7と2を丸で囲む。	ブロック
5分	3.引き算の式の書き方と意味を知る。 	「初めより数が減った。減るから引き算。7ひく5は2。」と言いながら $7 - 5 = 2$ と書く。	
3分	4.類題を解く。 買い物ごっこの挿絵を見て、初めの数と残った数を数えて立式する。	類題を解かせることで、理解度を確認する。	買い物ごっこの挿絵

1年算数④ 「20 までのかず」

1 課題と目標

想定される課題

本単元で出てくる「10 のまとまり」「10 といくつ」等の表現に、初めて接するケースが多い。また、10 のまとまりで数える方法も、日常生活の中で経験していないことが考えられる。授業に先行して、これらの表現や方法を指導することで、在籍クラスでの学びを円滑にしたい。

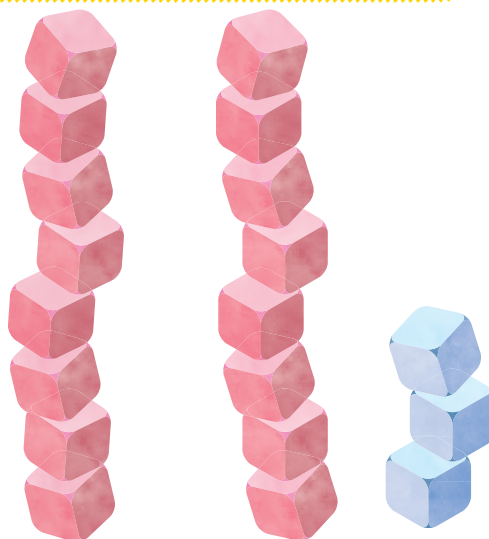
本時の目標

- 20 までの数の、日本語での読み方を知る。
- 「10 のまとまり」「10 といくつ」等の言い方を理解する。

2 指導のポイント

- 「10 のまとまり」という考え方はこの後の算数学習で大変重要なので、ここでは「10 のまとまりを作ることの意味」をつかませたい。
- 語彙：「まとまり」、「ばら」
- 表現：「10 と 3 で 13。」「10 といくつ。」「10 が 2 こで 20。」

14,17,19 の読み方は指導書では「じゅうし」「じゅうしち」「じゅうく」ですが、子供の実態に応じて他の読み方（じゅうよん等）も認めたほうが混乱が少なくなると考えられます。



3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
6分	1.10のまとまりとバラに分けて数える方法を、活動を通して学ぶ。 算数セットに入っているブロックのケースに、13個のブロックを入れる活動をする。 どの子供のブロックケースがわかりやすいか（いくつあるか）を考える。	6個と7個に分けて入れる子供も認める。そのうえで、10のまとまりを作った方が早いことを確認する。 - もし「10のまとまりを作らない子供」がいない場合は、教師が提示して比較させてもよい。	ブロック ブロックケース
4分	2.2位数「13」の構成と読み方を学ぶ。 子供の回答を受けて、2位数「13」の構成と読み方を説明する。	文型カード「10と3で13。」を提示し、13という2位数の構成を文で確認する。	文型カード
5分	3.19までの数の読み方を学ぶ。	- 文型カード「10といくつ。」を提示しながら質問する。 - 先ほど用いた文型カード「10と3で13。」の、2つの3の部分にカード等を使って「1」に置き換える。「10と1で11」を子供に復唱させる。	文型カード
5分	4.20の説明の仕方を考える。 T: 10と9で19。では、「20」は？	「10と10で20」では不十分なこと（10のまとまりが2つで20であること）に気づかせる。 △子供に考えさせ、発表させる。	

1年算数⑤ 「おおきいかず」①

1 課題と目標

想定される課題

「20までの数」で取り上げてはいるが、本単元で出てくる「くらい(位)」「まとまり」「ばら」等の表現やその理解、また、2位数の読み方などは定着が十分でないことが考えられる。

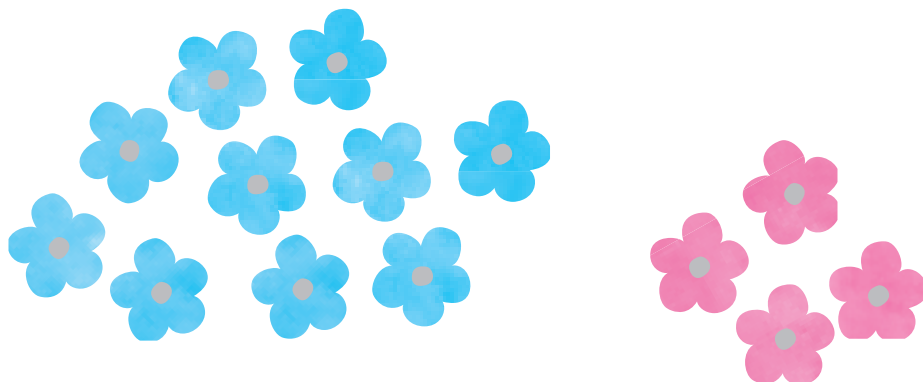
本時の目標

- 10の位、1の位の意味が分かる。
- 2位数の読み方を知る。
- 「10のまとまり」「10の位」「1の位」等の用語の意味を理解する。

2 指導のポイント

- 「10のまとまり」は繰り返し確認したい。
- 語彙：「くらい(位)」、「まとまり」、「ばら」
- 表現：「10のまとまりが4個と、ばらが6個」「10が4こで40。40と6で46。」

- 10のまとまりを数える際の助数詞は「～つ」よりも「～個」を使った方が混乱が少ないと思われます。
- 「10のまとまり」はなかなか定着しません。ブロックなどの具体物を使いながら、子供たちにイメージを持たせたいです。



3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
8分	1. 10のまとまりで数える方法を活動を通して学ぶ。 • たくさんのおはじきを数える。 まず子供が自由な考えで数え、その中で10のまとまりを作った子供のやり方を取り上げる。その際、「10のまとまり」という表現を提示する。	• 子供たちにおはじきを配り、「誰のおはじきが一番多いか」を数えるという設定をすることで意欲を高める。 • 10のまとまりを作っている子供がいたら取り上げる。5のまとまりをつくる子供がいても良い。 • 必要に応じて教師も一緒に数え、10のまとまりを作って見せる。	おはじき
3分	2. 10のまとまりを作る。 様々な数え方をしていた子供たち全員が、自分のおはじきで10のまとまりを作る。	△展開1で10のまとまりを作っていた子供は、ほかの子供のサポートをしてもらう。	
6分	3. 自分の持っているおはじきの数を知る。 • 「10のまとまりがいくつ」「ばらがいくつ」で2位数を表す。 • 位取り表などを利用して、10のまとまりを書く「へや」(※)、バラを書く「へや」を確認し、「10の位」「1の位」を示す。 (※在籍クラスでの言い方に合わせてください。(例) わく)	• 一度に期待される表現を求めず、いったん「まとまりの数とバラの数」のみ答えさせる(教師は板書する)。 • そのうえで期待される表現「10のまとまりが○個と、ばらが×個で◆」の表現でおはじきの数を表す。	おはじき
3分	4. 1の位が空位の2位数の書き方。 バラがないことで、1の位が「0」になることを確認する。	• 展開3で、おはじきの数がこれに該当する子供を指名せずにおくと、学習の流れがスムーズである。	

1年算数⑥ 「おおきいかず」②

1 課題と目標

想定される課題

母語での数字の読み方や母国の通貨単位などによっては、「10（じゅう）が3（さん）個で30（さんじゅう）」というイメージがつかみにくいケースがある。授業の前に「10のまとまり」という捉え方ができるよう指導しておきたい。

本時の目標

- 「10のまとまり」という考え方を理解したうえで2位数（1の位はゼロ）の計算ができる。
- 10のまとまりが10個で100になることを理解する。

2 指導のポイント

- 「10のまとまり」という考え方をしっかりと定着させる。それにより、この後の計算がスムーズに理解できるようになる。

- 授業では、折り紙10枚の束などを使うことが多いですが、いろいろな「10のまとまり」を見つけるのも楽しい活動です。卵やお菓子なども、良いかもしれません。まとまりということと、まとまりを数えるということを、いろいろな方法で経験させたいと思います。
- 本時は、「10のまとまり」であることが見えやすいので、手近にある○のラベルシールを使いました。
- 式を作る（数字で書く）ことは、在籍クラスで行えば良いと思います。まとまりで計算すること、その結果「10のまとまりが○個で×」という言い方で数が言えるようにすることが本時の中心課題です。
- 「ひゃく」という音が苦手な子供もいると思います。ここでは、厳密に発音の修正をすることはありません。「ひゃく」ということがわかっていれば良いでしょう。

3

展開 (指導上の留意点: △日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
8分	1. ゲームを通して2位数(1の位が空位)同士の足し算を学ぶ。 複数のペアを作り、一人ずつ、ペア代表としてじゃんけんをする。勝ったらシール(丸シール10個のまとまり)をもらう。 どのペアが一番多くシールを持っているかを考える。 T: Aさんは10のまとまりが2個、Bさんは10のまとまりが1個、合わせて10のまとまりが3個ですね。	- まず、丸シールが10のまとまりになっていることを確認する。 - ペアの獲得シールは、それぞれの10のまとまりのたし算であることに気づかせる。そのうえで、「丸シールの数」に着目させる。 - 次の展開に備えて、シールの色を変えておくと良い。 - 丸シールの数は「10が3個で30。」の文型を使わせる。 ▼必要に応じて、これまでに使った文型カードを提示する。 100を超えないように留意する。	丸シール 文型カード
10分	2. ゲームを通して2位数(1の位が空位)同士の引き算を学ぶ。 ペアでどちらがいくつ多いかを考える。	もう少しゲームを続けて数を大きくしてから引き算に入っても良い。	文型カード
2分	3. 100という言い方を知る。 ちょうど100になるペアがいればそれを使い、なければ教師が提示して、「10が10個で…いくつ?」と問いかける。 時間があれば $100 - 30$ の問題を提示し、10のまとまりの数で考えられることを示す。	「100」という言い方は知っている想定されるが、それが「10のまとまり10個」であることを確認する。	文型カード

1 年 生 活 ① 「がっこうのこと」①

1 課題と目標

想定される課題

1 年生の夏休みまでは、学校の生活に慣れることで精一杯。外国人児童にとっては、日本語での生活は聞き慣れないことも多く、正確に情報を受け取ることができていない子供が多い。学校内のことも 1 年生の教室のみに終始しているので、探検を通して学校内のことを知る良い機会となる。この単元では、友だちとのやり取りを通して、探検で使うあいさつの仕方を学びたい。

本時の目標

- 学校の中の主な場所の名前を知る。
- 学校探検の中で、先生方に話を聞く時のインタビューの仕方が理解できる。

2 指導のポイント

- 学校の中で使う言葉は難しく、子供にとってはなじみのない言葉が多くある。
- 職員室＝副校長先生（教頭先生）とセットで考えると子供はイメージしやすい。
- 語彙：しょくいんしつ、ほけんしつ、たいいくかん、としよしつ、きゅうしょくしつ、じむしつ、1 階、2 階、3 階
- 表現：「ここはどこですか。」⇒「ここは（職員室・保健室）です。」

学校探検に出る前に、入学から気になっている場所や人、物などを自由に発表させるようにしたいです。子供たち一人ひとりの学校理解についても知る良い機会となります。

学校探検を実施する前に、丁寧なあいさつの仕方を練習しておくが良いです。



3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
7分	1.入学してから学校の中で、行きたいと思っていたところ、行ったことがないところについて発表する。 T：学校で探検したい場所がありますか？ C：しょくいんしつ C：6ねんせいのきょうしつ等	子供が発表する場面では、子供がうまく表現ができなくても、意欲を高める活動にするために、最後まで話を聞く。	各教室や施設の写真
7分	2.教室クイズを通して、それぞれの部屋の名前を知る。 T：この教室の名前はなんでしょう。 C：しょくいんしつ	- 事前に撮影しておいた教室の場所の一部分を見せ、どこの教室かを考える。 - 写真と教室名をセットにして掲示しておく。	写真 教室名カード
6分	3.学校探検をするときの約束と、あいさつの仕方を練習する。 T：探検をするときに、気を付けることは何ですか。 C：はしらない C：けんかしない C：しゃべらない C：あいさつをする 等 T：教室に入るときなんと云いますか。 C：おはようございます。べんきょうでたんけんをしています。しょくいんしつをみせてください。	約 束 △学校探検をするときの約束について発表する。 静かにする／走らない／仲良く探検する等 あいさつの仕方 実際に校長先生などに来てもらい、あいさつの練習をする。	

1年生活② 「がっこうのこと」②

1 課題と目標

想定される課題

今回の学習までに「がっこうのこと①（先行学習）」、在籍クラスでの探検と教室名については繰り返し学習を行っている。そこで、ここでは自分が見つけたことや聞いたことや気づいたことを、適切な表現で発表できるようにしたい。

本時の目標

- 探検で気づいたことや見つけたことを、正しい表現で友だちに伝えることができる。

2 指導のポイント

- 授業後の復習として実施しても良い。
- 教室の場所と担当の教員をセットで覚えるとイメージしやすいので、写真を用意すると良い。
- 表現：「なにをするばしょ（きょうしつ）ですか」⇒「〇〇をするばしょです。」

「〇〇先生は、△△（場所）にいます。」

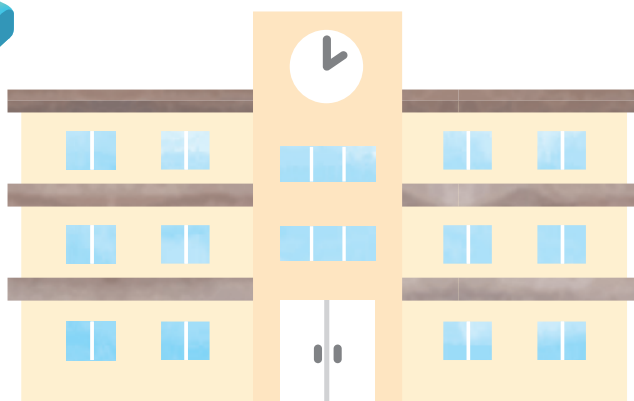
「なにがありましたか。」「〇〇がありました。」

実際に使用する教室や場所は、生活の中ですぐに覚えることができます。しかし、馴染みのない場所は覚えることができない子供が多いです。学校探検は、在籍クラスと連携しながら学習を進めることで、学校のことを知る良い機会となります。



3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1. 前回のふりかえりをする。各教室名を自由に言わせる。 T：学校にはどんな教室がありましたか？	- 各教室や運動場の写真を見ながら、前時のふりかえりをする。 △前時で使った教室名（文字）で何教室か答える。	各教室、場所の写真 教室名カード
10分	2. 発表ごっこをする。 ① 教室名を書いたカードを一人1枚ひく。 ② ひいたカードの場所について発表する。 ③ 発表の後で質問する。 C1：だれがいましたか。 C2：なにがありましたか。	- 自分がひいたカードについて自由に説明させる。発表を聞いて足りない情報について質問する。 - 質問に答えることで、どんな内容を話せばいいか気づかせる。 ▼質問にうまく答えられない子供は、同じ場所を見てきた子供に答えてもらっても良い。	
5分	3. 発表で話すと良いことを確認する。	場所、いる人、何をする、何がある、について話せば良いことに気づかせ、確認する。	



1年生活③ 「〇〇さがし」

関連する教科単元 国語「しらせたいな、みせたいな」他

1 課題と目標

想定される課題

春探し、夏探し等の活動で自分が見つけたものを報告する時、発表したいという思いはあるのだが、わかりやすく報告できないことがある。文章を短くすることや報告する視点を定めることで、思いを表現できるようにしたい。

本時の目標

- 何を探すのかを理解して、見つけることができる。
- 見つけたものを、発表することができる。

2 指導のポイント

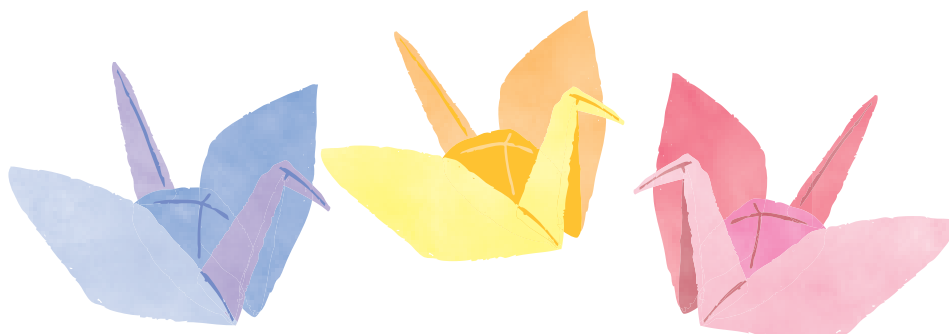
- 授業後の復習として実施しても良い。
- 見つけたものを報告する際、わかりやすく説明するためには、どこに何があったのか、どんな色でどれくらいあったのかを表現できるようにしたい。また、はじめに場所を話し、次にその物の様子について順序立てて話せるように、表現を提示して話させたい。
- 表現：「〇〇を見つけました。」、「〇〇（どこ）にありました。」、「〇〇色でした。」、「いくつありました。」

春探し等では、子供から「たんぽぽが公園にありました。」、「オタマジャクシが池にいました。」などの報告があります。わかりやすく報告することはこの先の学校の活動に必要な技能となります。今回の学習に限らず、様々な場面で継続して学習することをお勧めします。

3 展開

((指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導))

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1.教室内で宝探しをする。	- 折り鶴を見つけやすい場所に3つ置いておく。 - 今日探すものは折り鶴であることを確認する。 - どこに、いくつ、色 などの特徴をつかむことができるようにする。	折り鶴
5分	2.宝探しの報告をする。 折り鶴を見つけた場所を確認する。	- 見つけた折り鶴を報告する。 - わかりやすく発表することができない子供もいるので、折り鶴を置いた場所を写真で記録しておき、発表の時に掲示しておく。 △子供に自由に報告をさせる。	
10分	3.友だちに、見つけたものをわかりやすく報告するための文を考える。 「〇〇を見つけました。」 「〇〇（どこ）にありました。」 「〇〇色でした。」 「いくつありました。」	わかりやすく説明するためのポイントを伝える。 どこに、いくつ、色 などを伝えることができるようにする。	文型カード



1年生活④ 「かんさつする」

関連する教科単元 生活「〇〇さがし」、国語「おおきくなった」

1 課題と目標

想定される課題

植物の観察においては、特徴や状態を示す語彙（適切な形容詞や擬態語等）が必要となるが、非「日本語母語話者」の子供はこれらの日本語語彙が少ないことが多く、観察記録を書くにあたっての困難が予想される。

本時の目標

- 特徴や状態を表す語彙の確認。

2 指導のポイント

- 本時の目的は形容詞を教えることではない。観察活動の中で、子供たちの気づきを日本語にしていくことが重要である。
- 植物の種や芽の観察を念頭に置いているため、以下の語彙を想定するが、これにこだわるものではない。実物を提示しながら指導すると効果的である。
- 語彙：大きさ（おおきい、ちいさい）
色（あか、きいろ、あお、みどり、しろ、くろ、ちゃいろ）
形（まるい、ほそながい、さんかく）
感触等（やわらかい、かたい、ふわふわ、ざらざら）

- 外国人児童を指導していると、形容詞の獲得語彙数が、名詞や動詞に比べて少ないケースをよく見かけます。私の学校では、語彙増強のために形容詞絵カードを用いて神経衰弱（対義語をペアとする）などのゲームを日頃から少しずつ行っています。
- 現地の植物を教材に取り上げると、学びが広がると思います。子供にとって「先生よりよく知っている」ということは大変うれしく、学習意欲につながります。子供が知っていることや体験を授業に生かしてください。
- 「芽が出る」「花が咲く」「実ができる」などの言い方は、子供たちにとってなじみのないものです。TPR（Total Physical Response）と呼ばれる手法で、植物の成長を動作化させながら日本語表現を学ぶと、子供たちも喜んで活動します。

3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1.一人ずつ異なる観察対象物を受け取り、観察する。(ここでは種とする) ペアなどで、自分の種について、気づいたことを話す。	- この段階では子供たちの気づきを大切にしたいので、単語レベル(「ちっちゃい」「しましま」)でも良しとする。 「わたしの○○」を説明するところがポイントとなる。	観察するもの (ここでは種)
15分	2.気づいたことを全員に伝える。 C1:わたしのたねは黒いです。 T:C1さんのたねは黒いって。C2さんの <u>たねの色</u> は何ですか。 C2:黒です。	- 教師の問いかけで、「色」「形」など、観察の視点となる語を提示する。そのとき、文字カードも一緒に提示すると良い。 ▼語彙が不十分な子供の言いたいことを、教師が汲み取り、言語化する。	文字カード



1年生活⑤

「じぶんの一日を見つめよう」

関連する教科単元 算数「なんじなんぷん」

1 課題と目標

想定される課題

時間の言い方や日常生活の様々な動作の日本語表現が不足しているケースがあるので確認したい。また、家庭で現地語が使われていると、時刻の言い方も定着に時間がかかることが考えられる。

本時の目標

- 時間の言い方、時計の読み方が理解できる。
- 一日の生活の流れを言うことができる。

2 指導のポイント

- 時刻を表す助数詞が変則的である点に注意（よじ、しちじ、くじ）。
- 最終的に授業で発表することを念頭に、動詞は原形（起きる）ではなく、「ます形」（起きます）で指導する。
- 語彙：時刻の助数詞（いちじ、にじ、さんじ…）
日常生活における動作を表す語彙（起きます、宿題をします、寝ます…）
- 表現：「○じに□をします。」

3 使用可能な教材・ワークシート

- （一例）一日の生活の絵カードは下記ウェブサイト（特別支援教育・すぐに使える！プリント＋ビデオクリップ）で無料ダウンロードが可能。

http://sn1.e-kokoro.ne.jp/print/print_detail.php?kyozaino=P-106

日常生活のいろいろな動作の表現を繰り返させるときは、ジェスチャーとともに発話させると良いと思います。

4 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1.時刻の表現「〇じ(時)」を学ぶ。	△「〇時半」「〇時〇分」の表現を確認する。 ▼数字カードを使って、数字の読み方を確認する。	時計模型
7分	2.日常生活における動作の表現を学ぶ。 できればジェスチャーとともに言う。	・各絵カードに対応する文型カード(「おきます」「しゅくだいをします」等)を提示し、日常生活の様々な動作の表し方を確認する。 ▼「起きます」「寝ます」等目的語を含まない語彙に限定して練習する。	一日の生活の絵カード 文型カード
8分	3.カードゲームを通して「〇時に〇〇をします。」の表現を確認する。 動詞カードを裏返して積んで置き、子供が自分が引いたカードの行動を何時にするかを言う。	・助詞「に」の使い方を確認する。 ・まずは教師が見本を見せる。 T：(「起きます」を引く)「わたしは7じにおきます。」 時間があれば、時計でその時刻を示させる。	時計模型 動詞カード



2年 国語①

「たんぽぽのちえ」

1 課題と目標

想定される課題

「たんぽぽのちえ」ではたんぽぽについて知っていることを前提に、その「ちえ」に焦点化しているが、日本で育っていない子供は、たんぽぽを日常生活で見たりそれで遊んだりする経験をしていない可能性がある。たんぽぽのイメージは、事前に共有しておきたい。

また、たんぽぽの成長のように、時間とともに変化していくものを日本語で描写するという経験は乏しいと思われる。在籍クラスでの学習では中心となるところなので、先行して指導しておくことで理解が深まるとと思われる。

本時の目標

- たんぽぽの成長の様子について、イメージを持つ。
- たんぽぽの成長の様子を、日本語で表現できる。

2 指導のポイント

- たんぽぽが成長していく順番をわかりやすく説明するために、教科書の挿絵を使用する。
- 本時では成長過程、変化のみを扱うものとし、本文にある「たんぽぽのちえ」自体にはふれない。

3 使用可能な教材・ワークシート

- (一例) NHK for school 3年生理科「タンポポのそだち方」(インターネット)
- たんぽぽの挿絵のカラーコピー

- 日本の子供は、幼い頃から道端のたんぽぽを見かけたり、遊んだり、絵本やアニメで見たりした経験がありますが、海外で育った子供たちも同じ経験をしているとは限りません。
- たんぽぽの軸が倒れてまた起き上がるところを、腕を使って表すなどの工夫をしています。子供にも動作をさせるなどすると面白いですよ。
- 並べ替えの活動はペアくらいで行います。このため、操作用の教材と黒板で示す教材の、大きさの違う2種類の挿絵のコピーを用意しています。

4 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	1.動画を見る。		(一例) NHK for school 3年生理科 「タンポポのそだち方」(2分26秒)
6分	2.教科書の挿絵をコピーしたものを使い、挿絵を並べ替える。	- グループなどでやり取りをしながら、活動をさせるのが望ましい。 - 軸が倒れている挿絵は除いておく。 ▼母語でしか活動ができない子供の場合は、母語を使っても良い。	たんぽぽの絵 (教科書の挿絵のカラーコピー)
3分	3.「軸が倒れているたんぽぽの挿絵」を2の過程のどこに入れればよいかを考える。	2でのぞいておいた「軸が倒れているたんぽぽ」の挿絵を示す。	
8分	4.どこに入れたか、なぜそう考えたかを発表する。	△「～だからここだと思いました」という表現を使って答えるように促す。 ▼理由については単語レベルでも良しとする。母語の使用もあり。ただし、いずれの場合でも教師が理由表現を使って正しいモデルを示す。	



2年 国語②

「かんさつ名人になろう」①

関連する教科単元 生活「おおきくなあれ わたしの やさい」他

1 課題と目標

想定される課題

「観察」という言葉自体が日常では使うことがないため、「観察をする」ということのイメージが持てない可能性がある。そのため、観察のポイントを知らない、また、観察文を書くときに使用される、形・手ざわり・色・大きさなどの言い方になじんでいないことが考えられる。

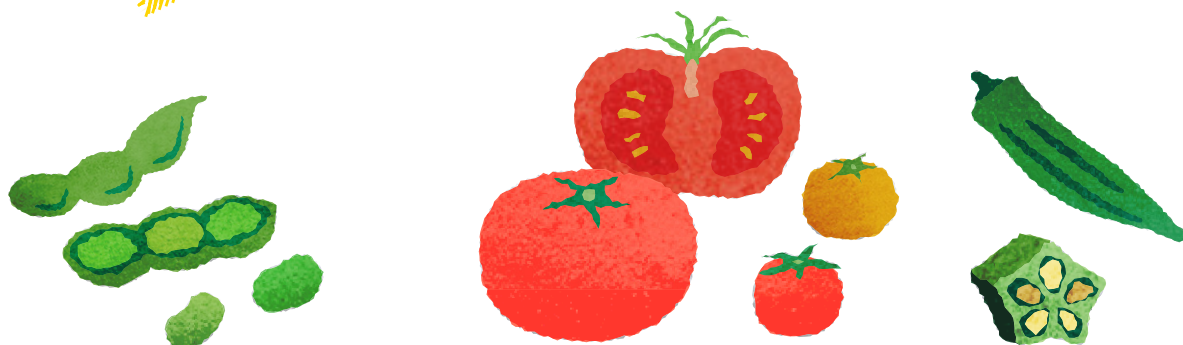
本時の目標

- 観察したものを、聞き手に伝わるような言葉で表現することができる。
- 観察の活動を通して、観察をするときの視点を持つことができる。

2 指導のポイント

- 観察の対象は自由で良いが、焦点化（「植物の葉」「やさい」）したほうが良い。

- 「たんぽぽのちえ」に先行して、こちらの活動を行うこともできます。そのときは、活動案②（本時）、①、③の順になるでしょう。
- 「ツルツル」「ざらざら」などのオノマトペは、非「日本語母語話者」にはとても難しいです。言葉だけの説明では、習得するのは難しいので、子供に実際に体験させたうえでオノマトペを提示するようにすると良いと思います。
- 活動案で取り上げた素材をそのまま使用することはありません。現地で調達できるもの、同様の活動ができる素材を自由に選んでください。



3

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1. バナナとゴーヤを用意し、見てわかる「似ているところと違うところ」を自由に発表する。 T：似ているところと違うところはどこですか C1：いろ、ちがう C2：どっちもおなじ。 T：何が同じですか C2：大きい… T：大きさは同じですね。	▼「似ている」という表現が難しい子供には「同じ」でも良い。その場合、授業の最後にすべてが全く同じではないことを確認し、「似ている」を導入しておくといい。 子供に自由に発言させ、その中から出てきた「観察の視点（大きさ、色、形）」をとりあげ、板書する。	ゴーヤ、バナナ
7分	2. (子供にゴーヤとバナナを渡す) さらに気づいたことを発表する。	- 同上 拳がってくる視点 - てざわり（板書は「さわると」）。 - におい。	
8分	3. ゴーヤかバナナのどちらかを選び、観察の視点に沿って発表する。 C：ゴーヤは、固いです C：ゴーヤの色は、緑です C：さわるとでこぼこです C：大きさは筆箱くらいです	全員が共通で理解できる基準を使うことが必要であることを理解させる。 △正しい文型で、フルセンテンスで発表するように促す。 ▼日本語力の高い子供の発表を聞いてから発表できるようにする。	



2年 国語③

「かんさつ名人になろう」②

関連する教科単元 生活「おおきなあれ わたしの やさい」他

1 課題と目標

想定される課題

観察については1年時に学んでいるが、観察文に触れる機会が少ないため定着しづらい。このため話すことはできても相手に伝わるように伝えること、特に、文で表すことが困難な子供が見られる。

本時の目標

- ・「かんさつ名人になろう①」で学んだ言葉を使って、観察文が書ける。

2 指導のポイント

- ・「〇〇の□□は～です。」を使って観察文が書けるようにする。

3 使用可能な教材・ワークシート

- ・在籍クラスで使用する観察カード

- ・話し言葉に引きずられて、だらだらとした文になる子供がいます。短文レベルで良いので、主述の整った一文を書かせるようにしたいです。
- ・子供が観察できるものを自分で選ぶと、意欲的に活動できて良いと思います（植物に限らず）。
- ・在籍クラスと同じ観察記録用紙を使うことで、書式に慣れることができます。クラスで勉強するときに、安心して学習に取り組むことができるので、同じものを使うことをお勧めします。

4

展開（指導上の留意点：△日本語レベルが高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
15分	1.観察したいものを選んで、観察の視点に沿って観察文を書く。	- 観察の視点を掲示しておく。 - 観察するものは、色や大きさ、手触りなどが異なるものを選ぶ。 ▼うまく書き始められない場合、観察の視点を使って書くことを促す。それでも難しければ、前時と同じやりとりをして思い出させる。	在籍クラスで使用する観察記録
5分	2.書いたものを読み返し、確認する。 個人で読み返す、友だちと交換して友だちの観察文を読むなど。	△1人か2人に、発表させても良い。 △と▼で書くときに必要な時間が大きく異なることが考えられる。△同士で交換して読ませる、▼は1文のみ書かせ、他の視点は単語でも良いとするなど、対応を事前に考えておく必要がある。	



2年 国語④ 「スイミー」①

1 課題と目標

想定される課題

本単元の学習課題を達成するためには比喩表現を正しく理解する必要がある。しかし、非「日本語母語話者」の子供は日本語の比喩表現に触れてきた経験が少ない。在籍クラスで学習に参加するためには、この点について事前に学んでおく必要がある。

本時の目標

- 比喩表現を知り、その意味を理解することで本文を読み取ることができる。

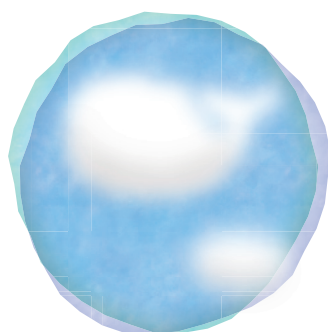
2 指導のポイント

- たとえているもの・たとえられているものを明確にする必要がある。
- たとえときの表現として、「～みたいに…」 「～ような…」を理解し、使えるようにしたい。

3 使用可能な教材・ワークシート

- (一例) 動画：魚の群れ NHK for school 理科6年「海の生き物のつながり」1分05秒
魚の群れの揃った泳ぎ方と、パクッと魚が食べられるシーンが見られる。

この単元では、挿絵等も含め、視覚的な資料を多用して理解させたほうが子供たちも喜びます。



4 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1.雲の写真などを見て比喻表現について知る。 T：何に見える？ C：くじら。 T：本当だ。クジラみたいな雲ですね。	ウェブ上にたくさん「～みたいな雲」の画像があるので適宜使用する。	画像
7分	2.本文中から「みたい」「ような」が書いてある場所を見つけ、たとえたもの・たとえられたものとマッチングする。 「ブルドーザーみたいな伊勢エビ」 「ゼリーのようなくらげ」	「みたい」を先に確認し、「ような」も同じ使い方であることを示す。	
8分	3.〇〇のような××で文を作る。	△「〇〇のような××」の前件または後件だけを書いた文を提示し、文を作らせる（「花のような____／____のような声」）。 ▼活動の展開 1 と同様、ウェブサイト等を利用して「〇〇のような××（…のような木、…のような野菜）を探して示し、日本語で表現させる。	写真や絵



2年 国語⑤ 「スイミー」②

1 課題と目標

想定される課題

「登場人物の気持ちを読み取る」活動では、在籍クラスでは本文に記述されている内容をもとに、登場人物の気持ちを推測する。したがって、そのように考えた根拠を述べるのが求められるが、教師の発問「なぜそう思ったか」に適切に答えることが難しい。自分の考えを伝える練習をさせておきたい。

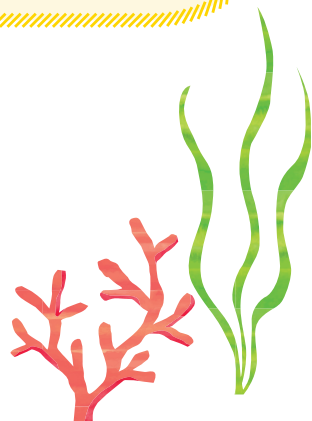
本時の目標

- 挿絵をもとに、主人公スイミーの気持ちを考えて発表する。また、そう考えた理由を話すことができる。

2 指導のポイント

- 単語レベルではなく、「スイミーは、～と思います。」「～だからです。」といった表現で、自分の考えを伝えるように指導する。
- 在籍クラスでの授業に先行して国語教科書の絵を使い、ストーリーを想像したり、知っていることを語り合ったりすることは比較的多く行われるが、その目的は、子供たちが本文を読むことを楽しみにするところにある。子供が自由に語り、イメージを膨らませる場を設けることで、学習意欲を高めたい。

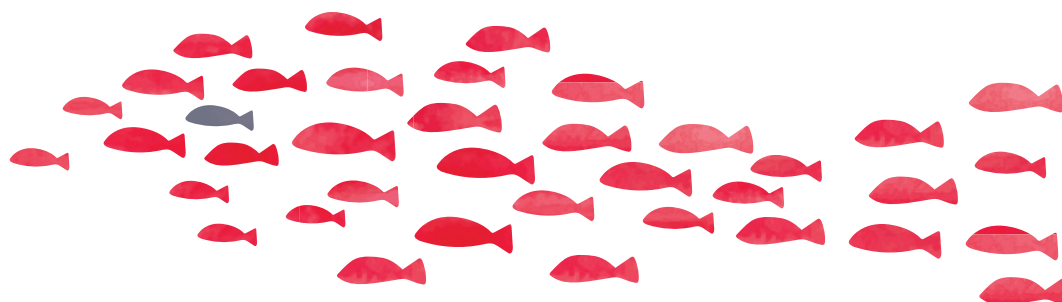
- 子供たちは、想像だけで言いがちなので、在籍クラスの授業では「スイミーの気持ち」を考えた根拠を本文の中から示すことが必要です。
- 先生の発話がモデルになるので、少し硬くなりますが、単語ではなく「スイミーはどんな気持ちだと思いますか。」「スイミーは悲しいと思います。」といったレベルで話したいです。それが在籍クラスでのやり取りや、感想文につながっていくと思います。



3

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
10分	1.第1場面の挿絵を見て、スイミーの気持ちを考え、発表する。 T：絵を見てください。真ん中に黒い魚がいます。この魚の名前はスイミーです。スイミーの周りに赤い魚がたくさんいます。スイミーはどんな気持ちだと思いますか。 C：たのしい。 T：Cちゃんは、「スイミーは楽しいと思います。」って言いたかったんだね。	• 子供が自分から適切な表現「～と思います。」で言えるように、繰り返し子供の発話を言い換えていく。 • フルセンテンスで言えた子供の発話は、その言い方をほめるようにしたい。 • 子供の発話を捉えて、理由を言うように促す。 ▼「～だからです。」の表現にならなくても良い。	
9分	2.第2場面の挿絵を見て、絵からわかることやスイミーの置かれた状況や、その気持ちについて発表する。	• 本時の活動は、スイミーの本文とは離れた子供たちの自由な発想で構わない。 • スイミーの気持ちとそう考えた理由については本時の目標なので必ず言わせたい。 • 子供の発話の言い換えは引き続き意識して行いたい。	
1分	3.まとめ	• 在籍クラスでは、教科書本文を読んで考えていくことを伝える。	



2年 国語⑥

「大すきなもの、教えたい」①

関連する教科単元

国語「あったらいいな こんなもの」、生活「つたえたいな」他

1 課題と目標

想定される課題

文を書くことは日常生活の中で経験しているが、メモを書く経験は少ない。経験不足のため、メモと文との違いが分からず、どのように書いたらよいか分からないことが予想される。

本時の目標

- メモと文の違いが分かる。
- メモの書き方が理解できる。

2 指導のポイント

- 好きな物と好きな理由が書いてある文を用意することで、「好きなもの」「理由」が必要だということに気づかせる。そのために、メモに必要な内容を書いた掲示用の言葉カードを活用して、意識付けさせる。
- すぐに文で書くことができない子供に対しては、絵を描かせたりして支援する。
- 表現：「わたしは〇〇が大すきです。」

- 1年生の時に学習した「たからもののしょうかい」を想起させてください。その学習の延長上にある単元なので、そのときのたからものの話から「大すきなもの」にイメージを広げてほしいです。
- 「大すきなもの」は物だけではありません。友だちや家族などもあるでしょう。いろいろなその子供なりの「たからもの」を出させたいです。そのため、敢えてたからものに、「かぞく」をあげています。

3

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.学習課題について話す。 めあて 「しょうかいメモを書こう。」	1年生で学習した「たからものしょうかい」を想起させる。	できれば子供たちが1年生のときに書いた宝物紹介の文を用意する。
14分	2.「大すきなもの、教えたい」を読んでメモには何を書いたら良いか考えさせる。 - 好きな物にあたる文はどこか、好きな理由はどこの文か、話し合う。 - どこの部分が好きな物と理由にあたるか、発表する。	- 教師が例文を用意して子供に見せる。そして、初めに大好きなものを書く。次に好きな理由を書くことを理解させる。そのために、以下のような簡単な文を用意する。 ①すきなもの 私は、いもうとが大すきです。 ②すきなりゆう かわいいからです。 - 子供が発表した項目に合わせて、言葉のカードを貼ってメモ内容と一致しているか確認する。	教師が作成した例文 メモに必要な内容を書いた掲示用の文字カード すきなもの すきなりゆう
5分	3.メモ項目に沿ってメモを書く。	- 短冊にメモを書かせる。 - メモが観点に合っているかを、確認させる。	メモ用の短冊



2年 国語⑦

「大すきなもの、教えたい」②

関連する教科単元

国語「あったらいいな こんなもの」、生活「つたえたいな」他

1 課題と目標

想定される課題

外国にルーツのある子供も日本の子供も友人同士の会話で順序を意識して話す場面は少ないと想定される。ここでは、内容に沿って順序を意識して、相手に伝わる文が書けるようにしたい。

本時の目標

- 話す順序を考えて、相手に伝わる文章を書くことができる。

2 指導のポイント

- 教師が提示する文は、短い単文にする。子供にも同様の文の短冊を渡して、どのように並べれば内容が伝わるか、操作活動を通して考えさせる。
- どんな順序で話せばよいかを、短冊を入れ替える操作活動を通して考える。そのために、文は3文程度とし、構成をしやすいとする。
- 表現：「〇〇が好きなわけは〜〜〜からです。」

- 子供同士が、聴き合ったり考えたりする時間を確保してほしいです。日本語補習でも、一問一答形式の授業ではなく、聴き合い学び合う授業が可能だと思います。主体的な学びはどこの国の子供にも必要なことだと思います。
- 発表原稿は、子供たちが書く字の大きさや丁寧さを考えて、マス目の大きさを設定すると、子供たちも書きやすいと思います。



3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.学習課題について話す。 めあて 「しょうかい文を書こう。」	前時のメモをもとに発表原稿を書くことを伝える。	
5分	2.話す順序を考えて、文を並び替える。 - 順序を考えて順不同にした、以下の文を並び替える。 *「大すきなサッカーのことを発表します。」 *「サッカーがすきなわけは、ゲームするのが楽しいからです。」 *「毎週土曜日は、クラブチームで練習しています。」	- 左記の文カードを順不同に並べて提示する。 - どの順で文カードを並べ替えたらいいかを考えさせる。 - 順序を変えた文を黒板に並べて、「①伝えたいこと／物」「②好きな理由」「③好きなことの詳しい説明」の順に書くことを、理解させる。	教師が作成した文カード
14分	3.紹介文を書いて、発表する。	- 紹介文をプリントに書いたら、近くの友だちと聴き合う。 △友だちの文のよい所を、相手に伝えられるように支援する。 「～が～だからよくわかりました。」 「～が～だから自分もつきたいです。」 などの話型を使って話させる。 - 敬体を使って話すことを確認する。	紹介文を書くプリント



2年 国語⑧

「主語・述語」

1 課題と目標

想定される課題

海外で生活する国際結婚家庭の子供は、日常会話はできても、主語・述語の揃った日本語「文」に触れる機会は少ない。日本語の文構造について、明示的な指導の必要性が推測される。特に、現地語の語順・助詞の有無が日本語とは異なることも想定されるので、留意したい。

本時の目標

- 文には主語と述語があることを知り、「主語」「述語」という単語になじむ。
- 文中から主語・述語を見つけることができる。

2 指導のポイント

- 本時で扱うものは、単文のみとする。
- 多くの例文に触れることで、理解を促す。

- この授業では、教師は意識的に「だれが（は）／何が（は）」「どうする／どんなだ／なんだ」が最低一つずつ入っている「文」で正しく書いたり話したりする方が良いと思います。
- 「なにがどうする」「だれがどんなだ」といった表現は普段耳にしないので、在籍クラスで述語の分類をする場合は、例文を通して理解できるように工夫が必要です。



3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
10分	1.文づくり。 カードを使って文づくりをする。	主語・述語のみからなる単文を10程度作り、カードに書いて主語・述語に切っておく（この際、主語・述語で色を変えておく）。	カード
3分	2.「主語」・「述語」という言い方を知る。	色の違いに着目させ、主語・述語という言い方を伝える。	
7分	3.例文を使って、主語と述語を探す。文の主語・述語を発表する。 例文1) 主語述語のみの単文 例文2) 修飾語等が入っている文	「この文の主語は～です。」「この文の述語は～です。」という表現で言わせることで、「主語」「述語」という表現に慣れさせる。 - 主語でも述語でもないものがあることは押さえておく。	

【文例】

- ・わたしは2年生です。
- ・花がさきました。
- ・学校はたのしいです。
- ・先生が走っています。
- ・日本はあつかったです。
- ・校長先生はやさしいです。

...

- ・わたしは6時に起きます。
- ・ドラえもんは未来から来たネコ型ロボットです。

2年 国語⑨

「お話のさくしゃになろう」

1 課題と目標

想定される課題

日記文や手紙文は書いた経験があるので、支援がなくても書けると予想できる。しかし、物語文では、段落を意識して順序良く書く力が要求される。そのため、先行学習で適切な支援を行うことが重要となってくる。

本時の目標

- 物語の続きを考えて、文章を書くことができる。
- つなぎ言葉を適切に使って、あらすじを展開することができる。

2 指導のポイント

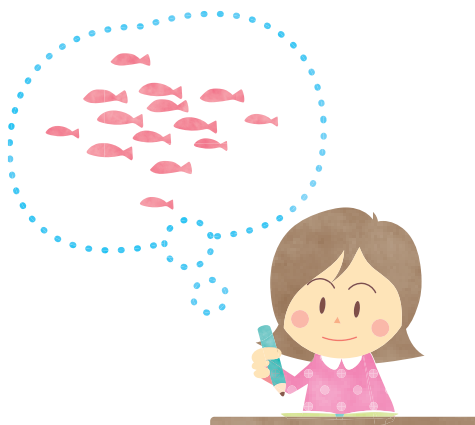
- 自分で物語を書くことは困難が予想されるので、既習した内容の主人公「スイミー」をモチーフにして、物語の続きを考えさせる。
- すぐに文で書くことができない子供に対しては、絵を描かせたりして支援する。
- 語彙：時間が後になったつなぎ言葉：そのあと、それから
場所を表すつなぎ言葉：そこで

- なかなか書き始めることができない子供に対しては、話したり絵を描かせたりして、イメージを膨らませてください。どんな子供でも、自分の頭の中にイメージはされているのですが、言語化・文字化できないだけなのです。
- 教師が自分の書かせたいように引っ張るのではなく、子供のもてる力を引き出していくようなイメージ（糸を紡ぐような感じ）を持って支援してほしいです。
- お話ができたら製本して（簡単に）、クラスで読み合えるようにすると楽しいと思います。読書活動にも繋がります。

3

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.学習課題について話す。 めあて 「お話のつづきを書こう。」	・ スイミーのお話の続きを考えることを伝える。 ・ スイミーの最後の場面の絵を見せて、続きを書くことを意識させる。	スイミーの最後の場面の絵
10分	2.スイミーがどこで何をしたのかを考えて短冊に書く。 例 台わんの海に行く。 兄弟がふえる。 短冊を黒板に貼る	・ 自由に話し合い聴き合う中で、物語を膨らませる。 ・ 「スイミーは、〇〇で□□をしました。」という文型を使って話させる。 △ 次の書く学習に自然に進めるように、書きたい子供には短冊を渡して書かせる。 ▼ イメージできない子供については絵を描かせて表現させても良い。	短冊 絵を描く紙 海・山・空などの写真
9分	3.短冊を並べ合って、物語の展開の広がり聴き合う。	・ 短冊を見て、どんなお話ができるかみんなで考える。 △ 「どんなお話になると思う」と問いかけて続きを話させる。 ・ つなぎ言葉を意識させて話させる。	



2年 国語⑩

しかけカードの作り方

1 課題と目標

想定される課題

日常会話の中で、日本語で手順を伝えるなどの経験はあまりしていないと思われる。日常では「～て、～て…」の形で伝えることが多く、接続語の使用機会は少ない。

本時の目標

- 順序を示す接続語を使うと、聞き手にわかりやすく伝えることができるということが理解できる。
- 文を正しい順序に並べ替えることができる。

2 指導のポイント

- 本時で取り上げる接続語は「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」の4つに絞る。
- 「つぎに」「それから」は、どちらが先でも良いことに注意する。

本時に使用する例文案

例文① まず、スイッチを入れます。つぎにパスワードを入れます。最後にクリックします。これでパソコンを使うことができます。

例文② まず、やさいをあらいます。つぎにやさいをきります。それからお皿にのせます。最後にドレッシングをかけます。これでサラダのできあがりです。

例文③ まず、おゆを入れます。それから3分待ちます。つぎにおゆを捨てます。最後にソースを入れて混ぜます。これで焼きそばのできあがりです。

この授業のターゲットは接続語なので、例文を作る時、接続語以外の部分の日本語が難しくないように注意しましょう。

3

展開 (指導上の留意点: △日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	1.導入として、カップラーメンの作り方を子供が話す。 T: カップラーメンは、どうやって食べますか。	- 本時の目的が、手順の説明であることを確認する。 - この段階では「～て、～て…」の文でもかまわない。	
10分	2.文の操作活動。 個人またはペアで短冊の並べ替えを行う。	- 例文①～③を1文ずつ短冊に書いておく。 - 順序を表す接続語は文字の色を変えるなど、わかりやすくしておく。 - この段階では、接続語に注目する必要はない(子供の経験から順序は分かるはず)。	文づくりのための短冊
4分	3.気づいたことを話す。 並べ替えた文を見て、接続語の位置(順序)を確認する。	- 以下の点に気づけるようにする。 「まず」「さいごに」の位置は固定であること 「つぎに」「それから」の順序はどちらでも良いこと。	
3分	4.接続語の使い方を確認する。	適切な接続語を空欄に入れる。	ワークシート

【ワークシート文例】

- どんぐりごまをつくりましょう。
- _____ どんぐりをひろいます。
- _____ どんぐりにあなをあけます。
- _____ ようじをさします。
- これでどんぐりごまのできあがりです。



2年 国語⑪

「スーホの白い馬」①

1 課題と目標

想定される課題

物語の舞台となる場所・時代・楽器等の予備知識がないと、物語の内容が十分理解できないと思われるので、先行で物語に入る前に学習したい。

本時の目標

- ・スーホの育った場所や馬頭琴に興味関心を持つことができる。

2 指導のポイント

- ・滞在国・モンゴル・日本の位置関係や、モンゴルで暮らす人達の生活がイメージできるように先行学習を行う。
- ・世界地図を用意して、位置関係を理解させる。
- ・モンゴルでの生活が理解できる動画を活用する。
- ・馬頭琴については、動画で演奏を聴かせる。

3 使用可能な教材・ワークシート

- ・馬頭琴の演奏は YouTube
- ・(一例)『NHK クリエイティブ・ライブラリー』の素材

- ・馬頭琴の演奏は、動画で見せればよいというものではありません。子供たちのイメージが広がるような、モンゴルの草原で弾いている動画を活用してください。YouTubeにあるので、それをうまく活用してほしいです。
- ・馬頭琴は、楽器の頭の馬の部分を大きく映した写真を用意すると良いでしょう。
- ・地球儀や地図をうまく活用して、見渡す限り一面の草原のモンゴルを想像させてください。それが、競馬のシーンや、白馬が走って走ってスーホの家に帰ってきた時の心情理解に繋がります。
- ・低学年なりに自分の考えを分かりやすく伝えて、聴き合うための学習習慣を身につけさせたいです。聴き合う活動をしやすい展開にしてあるので、3の活動で聴き合い、自分と異なる考えや感想に触れさせてほしいです。

4

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.学習課題について話す。 めあて 「モンゴルはどんな国でしょう。」	- 学習する内容の舞台がモンゴルであることを知らせる。 - モンゴルの位置と暮らしについて、自分のいる国と比べながら学習していくことを知らせる。	国名の書かれた大きな世界地図
2分	2.滞在国・モンゴル・日本の位置関係を知る。 地図にシールを貼って、位置を確認させる。	本文の「中国の北の方、モンゴル」の意味を理解させるために、シールを貼ることで位置を確認させる。	シール
10分	3.モンゴルの人たちの暮らしや馬頭琴の演奏などを見聞きして感じたことを聴き合う。	2分くらいの動画を見せて、お互いに感じたことを話させる。 - 草原・羊・ゲルなどが映っている動画を活用する。	動画素材
7分	4.学習して初めて知ったことや馬頭琴の音色を聴いて感じたことを書く。	- 聴き合って感じたことを書かせる。 △聴き合う中で、自分の感じたことが深まったら「～さんの考えを聴いて～だと思いました。」等の文型を使ってふりかえりが書けるように支援する。 ▼モデル文「～だから～だと思いました。」を提示して書かせる。 - 時間があれば一人ずつ発表させる。	



2年 国語⑫

「スーホの白い馬」②

1 課題と目標

想定される課題

音読は堪能だが、叙述に沿って読み、心情を理解するための読解方法が十分身につけていないと予想されるので、先行で読み取り方を学習させることが必要と思われる。

本時の目標

- 登場人物の行動や様子から気持ちを読み取ることができる。

2 指導のポイント

- 登場人物の気持ちを読み取るための方法を理解させるために、例文を使って、行動や様子から主人公の気持ちを読み取らせる。
- 行動や様子から気持ちを読み取るために、叙述にそって主語や様子を表す言葉に着目させる。
- 気持ちを想像させるのに重要な複合動詞「だきかかえる」などは、動物のぬいぐるみ等を使用して動作化させる。

3 使用可能な教材・ワークシート

- ワークシートの例参照

スーホの白い馬		月	日	名	姓						
めあて スーホの気持ちを考えよう。											
みんながしんばいで、たまになくちたろ、スーホが、何か、白いものを、だきかかえて、帰ってきました。 みんなが、そばに、かけよると、それは、生まれたばかりの、小さな白い馬でした。スーホは、にこにしながら、みんなに、わけを話しました。											
ふりかえり											
<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>											

- 動作化することで、言葉と行為が一致します。そこから、一気にその行動の意味や登場人物の気持ちを理解します。どの場面で動作化を入れるかが、教師の腕の見せどころです。タイミングよく活用することで、子供の学びが深まります。日本の子供でも動作化を使うことで、より深い読みをする子供もいます。
- 「読む」練習のための場面として、分かりやすいこの場面を使いました。他の場面でも先生方の経験で変えてもらって結構です。

4

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.学習課題について話す。 めあて 「スーホの気持ちを考えよう。」	スーホの行動や様子から気持ちを考えていくことを知らせる。	三つの文を拡大コピーしたもの（教師用）
15分	2.「スーホが」「スーホは」という主語に着目して、スーホの行動や様子から、気持ちを想像して話し合う。 - 気もちの分かるところに、線を引く。 - 線を引いたところから、どんな気もちが分かるか、ペアで聴き合う。 - 全員で、スーホの気もちについて聴き合う。	- 子供がどの文のどんな言葉からそのように想像したのかを、「～だから～だと思いました。」という文型を使って、話し合わせる。 - 気もちを考える際に根拠となる言葉や行動に、線を引かせる。そのためには、主語や述語に着目させる。特に「だきかかえて」「にこにこしながら」等に着目させる。 ▼気もちを考える根拠となる言葉が分からない子供に「にこにこしながら」を例に挙げ、「にこにこする時はどんな時？」等、個別に問いかけをする。 ▼「だきかかえて」などの表現は具体物を使用して動作化させ、スーホが白い子馬を大事に思っていることを感じさせる。	文を書いたプリント（子供用）
4分	3.スーホの気もちについてまとめる。 「～だから～だと思います / ました。」の文型を活用して、自分の理解したことを書く。	2の学習活動で聴き合って、自分が感じたことを書く。 △聴き合う中で自分の感じたことが深まったら「～さんの考えを聴いて～だと思いました。」等の文型を使ってふりかえりが書けるように支援する。 ▼モデル文「～だから～だと思います / ました。」を提示して書かせる。 - 在籍クラスの授業でも、この時間に学習したように、主語と様子を表す言葉に着目して読んでいくことを知らせる。	

2年 算数① 「ひっ算」①

1 課題と目標

想定される課題

「1の位」「10の位」という表現が日本人児童に比べて定着しづらい。このため、「位」同士を「揃える」ということが十分に理解できていない可能性がある。

本時の目標

- 位をそろえて筆算の式が書ける。

2 指導のポイント

- 1年で学習した「位」という概念を確認する必要がある。
- クラスでの学習に参加するには「位を揃える」ことができ、その表現になじんでおくことが大切。

3 使用可能な教材・ワークシート

参考資料

- グレーゾーンの子供向けのワーク・プリントなど

- 1位数+2位数の計算の場合、1位数の数字を10の位に書いてしまう子供がたくさん見られます。そのため、初めから「くらいのへや(※)」を書いたワークシートを使ったり、1の位はピンクの部屋、10の位は黄色の部屋として色分けするなどの工夫をしています。
(※在籍クラスでの言い方に合わせてください。(例) わく)
- この単元については、活動ではなくスキルの習得を目指したいです。「位」という概念を把握できたら、あとは繰り返し練習…だと思います。
- 「12は10が1つと1が2つ」は、この時間(20分)では扱えません。

4 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	「12 + 34」という式を提示する。 1.1 年生の復習：「12」「34」の二つの数字で、それぞれ「1の位」「10の位」の数字を言う。	▼位を色分けして視覚的にもわかりやすくする。	
5分	2. ひっ算の書き方を知る。	「ひっ算」という単語はここで初出なので注意する。ただし、ひっ算の説明はせず、授業の最後に、「これがひっ算」と再確認する。 - タイルは使わずに、はじめから数字で書く。 - 位をそろえ、適切な「へや」に数字を書くことを意識させる。	
7分	3. 計算の仕方を知る。	1の位（ピンクのへや）から計算することを明確に伝える。 ▼「初めに、1の位を足します。2 + 4 = 6です。次に、10の位を足します。1 + 3 = 4です。だから答えは46です」と言わせながら計算させても良い。	
5分	4. 計算練習をする。		

$$\begin{array}{r}
 \begin{array}{cc} 1 & 2 \end{array} \\
 + \begin{array}{cc} 3 & 4 \end{array} \\
 \hline
 \begin{array}{cc} 4 & 6 \end{array}
 \end{array}$$

2年 算数② 「ひっ算」②

1 課題と目標

想定される課題

「繰り下がる」という言葉を日常生活で使うことがないため、意味を十分にイメージすることが難しいと予想される。そのため、繰り下がりのある筆算は、10の位から1の位へ1（10）繰り下げることが理解することが課題となる。

本時の目標

- 繰り下がりのある引き算の計算のやり方を知り、計算することができる。

2 指導のポイント

- 10の位から1の位に「1かりる」ということは、「10の位から10のまとまりを1つ借りる」ことだとイメージできるようにする。

3 使用可能な教材・ワークシート

参考資料

- グレーゾーンの子供向けのワーク・プリントなど

- 繰り下がりのある筆算の書き方は在籍クラスと揃えています。
- 繰り下がりのある引き算を学習した後は、機械的に繰り下げてしまいがちなので、式をよく見て計算するよう声掛けをしています。
- この単元については、活動ではなくスキルの習得を目指したいです。
- 筆算の計算は、言葉で唱えながら計算すると定着が増します。

4 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
2分	1.「$43 - 15$」という計算の式を提示する。 繰り下がりのある引き算の筆算の解き方を知る。 T：3から5は引けますか。 C：ひけません。	今日の学習課題を提示する。	
10分	2.繰り下がりのある引き算の計算の仕方を知る。 ①1の位の「3」（引かれる数）から、「5」（引く数）を引くことができるかどうかを確認する。 T：1の位の3から5は引けますか。 C：ひけません。 T：引けないから10の位から10のまとまりを1つかります。 10のまとまり1つは10なので、10かりて、13。 13から5は引けるので、$13 - 5$は8になります。 10の位は10のまとまりが4から1つ減って、4引く1は3。 3 - 1は2になります。 だから答えは、28です。	- 計算の仕方を説明するときは、教科書の図を使用する。 1の位から計算をすることを確認する。 1の位の数字が上から下に引けないことに気づかせる。 1の位の8の横に、$13 - 5 = 8$と書く。 書くことで10と3で13になり、13から5を引いたことを意識させる。 10の位の4を斜線で消させ、その上に3と書かせる。 ▼「1の位の3 - 5はできないので、10の位から10借ります。 10借りたので、$13 - 5 = 8$ 10の位の4が3になって、$3 - 1 = 2$。答えは28です。」と言わせながら計算させても良い。	教科書の計算の仕方を説明した図
8分	3.計算練習をする。	- 繰り下がりのある筆算の計算の仕方を理解したかどうかを確認する。 - 繰り返し計算練習をすることで定着を図りたい。	

2年 算数③

「1000 より大きい数」

1 課題と目標

想定される課題

子供たちは、日常生活の中で、大きな数を目にしたり読んだしている。しかし、十進法の仕組みを理解して、数の構成や分解を考える場面では、困難が生じることが予想される。日常生活では使わない「〇の位」ということばの定着を図るとともに、十進法の仕組みが理解しやすい半具体物を使用することで理解支援に繋げたい。

本時の目標

- 十進法の仕組みがわかる。
- 4桁の数を、読んだり書いたりできる。

2 指導のポイント

- 数を具体化させるために、数のタイル模型を使用して確認させる。
- 自分の考えを説明するときには、根拠が説明できるように、モデル文を提示する。
- 語彙：1の位 10の位 100の位 1000の位
- 文型：「1000の位が4だから4000です。」

- 数を具体化させるために、数のタイル模型を使用してほしいです。「〇が10集まると△」になるという十進法の仕組みが分かりやすいです。数え棒は1個ずつが見えないためイメージしにくいので、ここでは数のタイルを使用した方がわかりやすいです。

3

展開

(指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 数を読んだり書いたりすることを知る。		ワークシート
3分	2. 位を確認する。 ・ 位取りの枠を見て、右から 1 の位、10 の位、100 の位、1000 の位になることを確認する。	- 右から順に 1・10・100・1000 と数が続くことを、1 のタイル・10 のタイル・100 のタイルを使って視覚的に理解させる。 - 位が意識できるように色で分ける。 ▼位によって色を分けることで、それぞれの位の場所を確認させる。	数のタイル 位取りの枠
8分	3. 4桁の数をタイルで表す。 ・ 数を読む。 T：いくつですか。 C：7345 です。 ・ タイルの並べ方を発表する。 T：どうして七千三百四十五とよみますか。 C：7345 は 1000 が 7 こ、100 が 3 こ、10 が 4 こ、1 が 5 こだからです。 T：いくつですか。 C：7005 です。 T：いくつですか。 C：7000 です。	- 教師が 3 パターンの数（空位なし・1 個空位あり・2 個空位あり）を板書して、どのタイルをいくつ使ったらよいか、ペアで考えさせて、机上に並べさせる。 - 自分の並べ方を発表するときは、根拠が説明できるように、モデル文「～が～だから～です。」を活用する。	数のタイル 位取りの枠
8分	4. 数のタイルを見て、4桁の数を書く。 T：タイルを並べました。いくつですか。書きましょう。	教師が 3 パターンのタイル（空位なし・1 個空位あり・2 個空位あり）を並べて、子供に数を書かせる。	数のタイル 位取りの枠

2年 算数④

「三角形と四角形」①

1 課題と目標

想定される課題

教科学習語彙「直線」「頂点」「辺」「角」等については日常生活で使うことがないため、理解に困難が予想される。操作活動を取り入れて、活動の中でそれらの言葉を使うことにより理解を深めさせたい。

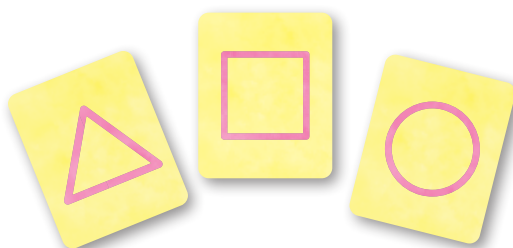
本時の目標

- ・「直線」「頂点」「辺」「角」が理解できる。
- ・頂点、辺、角の数に着目して、仲間分けができる。

2 指導のポイント

- ・様々な図形のカードを用意して、仲間分けさせる操作活動を行うことで、子供の興味関心を高める。また、特徴により分別する活動を通して、教科学習言語の理解と活用を図りたい。
- ・仲間分けの理由を説明するときには、モデル文を使って理由を説明することができるようにする。
- ・語彙：直線、頂点、辺、角
- ・表現：「～が～から～です。」→「辺が4本あるから四角形です。」

- ・体験活動で使用する図形のカードは操作しても破れたりしないように、厚紙で作ってください。また、色など他の要素で分けてしまわないように、全部同じ色で作成すると子供の思考を妨げないと思います。そのときカードに番号を振っておくと、子供が説明する時に説明しやすいと思います。



3

展開 (指導上の留意点: △日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1.いろいろな形を分ける。 めあて 「どんななかまに分けたでしょう。」	- 四角形・三角形・その他の形に分かれるような図形のカードを用意して、3つのグループに分けさせる。 - 直線ではない形を必ず入れる。 - ペアまたはグループで取り組ませる。みんなで考えを聴き合う中で自分の考えを説明できるようにしたい。 - カードには番号を書いておき、分別するときに説明しやすいようにする。	様々な図形カード
10分	2.グループに分けて、その理由を発表する。 ＜四角形＞ 辺が直線で4本、頂点が4つ 4本の辺で囲まれている。 角が4つだから四角形。 ＜三角形＞ 辺が直線で3本、頂点が3つ 3本の辺で囲まれている。 角が3つだから三角形。 ＜その他＞ 直線ではない。	- 頂点は「〇つ」 辺は「〇本」で数えることをおさえる。 - 日常会話では使用頻度が低い算数の教科学習言語を正しく使って説明できないときは、「算数では、角というよ。」というように丁寧に訂正する。 「辺で囲まれている」という日本語表現が理解できないので、動作化させて（3人ないしは4人で手を繋がせるなどして）確認させる。 - 仲間分けの説明のときには、「～が～だから（四角形・三角形・その他）にしました。」というモデル文を使って説明できるようにする。 - ここでは五角形や六角形等は混乱するので出さない。	掲示用の図形 「直線」「辺」「角」のカード (ルビ付)
5分	3.ワークシートに学習のまとめを書く。	教科学習言語にはルビを振って、子供が読み方を忘れてもいつでも分かるように支援する。	ワークシート

2年 算数⑤

「三角形と四角形」②

1 課題と目標

想定される課題

図形の性質や特徴について、日常会話で使用するものの少ない算数の教科学習語彙や算数科で使用する日本語表現を用いて話すことは難しいと思われる。そこで、動作化や操作活動を行うことで、図形の特徴を理解して表現することを身につけさせたい。

本時の目標

- 三角形と四角形の特徴が理解できる。

2 指導のポイント

- 教科書に書かれている「長方形は、向かい合う辺の長さが等しい」「正方形は、4つの辺の長さが等しい」のような図形の性質を表す表現や言葉を理解することが難しいので、「向かい合う」などは動作化させてイメージさせたい。また、図形の性質を板書する際にも、教科書通りの言葉で書くと、文が長くなり表現が難しいので、「等しい＝同じ」というように、語彙の説明を簡単な言葉に直して書くと良い。
- 辺の色を赤、角の部分青、頂点を黒というように、辺や角や頂点を色分けして見せることで、視覚的に辺や角の長さや大きさに着目できるようにする。そして、それぞれの図形の共通点と違う点に目を向けて、それが各図形の性質につながることを理解させる。子供が見つけた共通点や違う点について話し合うときには、「頂点」「向かい合う辺」「角」「直角」などを使って話させたい。
- 説明するときには、次の文型「～は～が（同じです。／違います。）」「～と～は～が（同じです。／違います。）」を使って説明できるように、モデル文を提示して支援する。

- 体験活動で使用する図形のカードは折り重ねて長さが等しいかどうかを確認できるような紙で作ってください。また、図形の辺・角・頂点を色分けすると比べやすいです。少し手間がかかりますが、理解支援になります。

3

展開

(指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.いろいろな形を分ける。 めあて 「辺、角、頂点についてしらべよう。」	正方形・長方形・直角三角形の図形カードを用意して、大きさや長さを調べることを知らせる。	様々な図形カード
15分	2.図形を比べて、同じところと違うところを発表する。 - 辺や角の大きさに着目してカードを折ったり重ねたりする。 辺、角、頂点について分かったことを聴き合い、発表する。	- 図形カードは、重ねて長さを調べられるように、折り曲げられるものにする。 - どこに着目すれば良いかわかりやすくするため、図形のカードの「辺」「角」「頂点」は色分けしておく。 - 色分けしてある「辺」「角」「頂点」に目を向けさせる。 ▼「辺」「角」「頂点」が理解できていない子供には、再度言葉と場所を確認する。 - ペアまたはグループで取り組ませる。みんなで考えを聴き合う中で自分の考えを説明できるようにしたい。	
4分	3.ワークシートに学習のまとめを書く。	2で発表した図形の性質をワークシートに記入させる。 - 大事なことだけ□□に記入できるようなワークシートを作成する。 例：正方形は4本の□□の長さが等しいです。 - 教科学習言語にはルビをふって、子供が読み方を忘れてもいつでも分かるように支援する。	ワークシート

2年 算数⑥ 「かけ算」

1 課題と目標

想定される課題

かけ算の導入で使われる「〇個ずつ」という表現を正しく理解できていない可能性がある。同じ数のまとまりであることをイメージできるようにしたうえで授業に参加させたい。

本時の目標

- 「〇個ずつ」の意味を理解する。
- かけ算の概念を知る。

2 指導のポイント

- 「〇個ずつ」という概念を、操作活動を通して具体的につかませる。
- 本時は「〇個ずつ」「いくつ分」の定着を図る。そのため、「1つ分の数」という表現は先行学習では取り上げず、在籍クラスでの授業で初出となる。

3 使用可能な教材・ワークシート

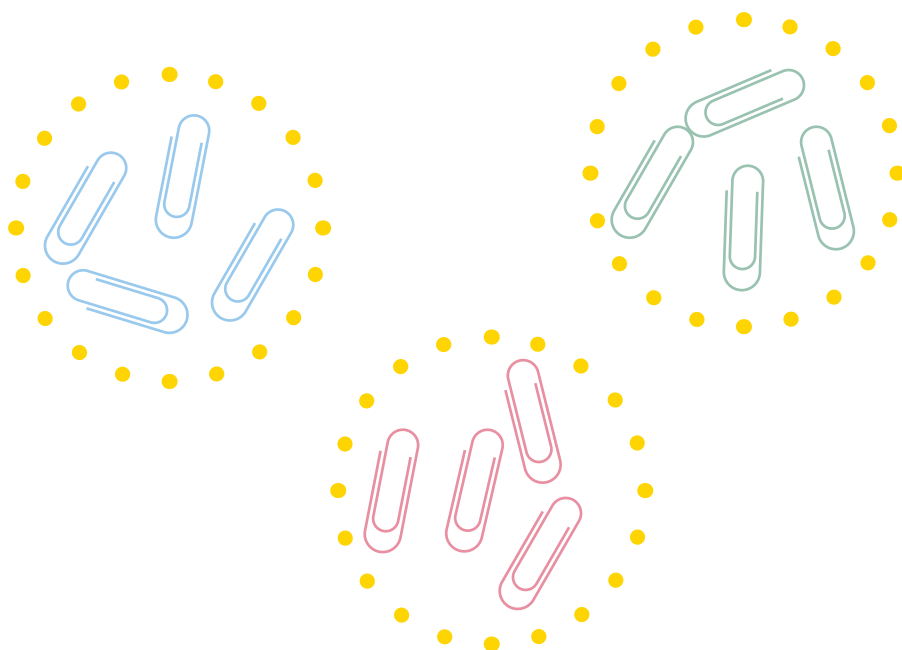
- 何でもよいので、2個ずつ、3個ずつ、4個ずつ、5個ずつのまとまりを複数つくっておく

例) ビー玉をラップ等で包む。／クリップを紙皿の上にのせる。

- 助数詞は複雑なので、そこでつまずかないように注意しましょう。1つ2つ、より1個2個…の方が簡単です。慣れるまで全ての問題で「何個?」「〇個。」で統一すると子供にとっては楽です。
- 言葉の小さな違いにつまずくことがありますので、在籍クラスと補習クラスで使う言葉は統一してください。たとえば「1つ分の数」「1あたりの数」などです。
- 皿や包みもいいですが、チャック付きビニル袋を利用すると楽です。

4 展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
7分	1.クリップの入った包みを、入っている数で分類する。	入っている数が同じであることをもう一度確認させて、「〇個ずつ」の意味を理解させる。 「(このグループは) 〇個ずつ入っています」	クリップ 紙皿包みなど
7分	2.かけ算の概念を知る。 2個ずつが3個 3個ずつが5個	答えを板書し、そのままかけ算の概念につなげる。 かけ算、「×」の記号もこの時に提示する。ただし、「全部でいくつあるかを調べるときに使う」程度の説明に抑える。	
6分	3.教科書以外の絵を使い、「〇個ずつが×個」の表現で説明し、かけ算の式を作る。	△「〇個ずつ」をすでに理解している子供に絵を描いてもらい、それを使って立式させても良い。 ▼「〇個ずつ」を繰り返し言わせることで定着を図る。	



2年生活①

「もっと なかよし
まちたんけん」

1 課題と目標

想定される課題

国によっては、敬体と常体を使い分けて会話することがないことがあり、敬体と常体の使いわけで戸惑うことが予想される。この单元では、町の人にインタビューする活動があるので、授業に先行して敬体で相手に分かりやすく伝える話し方を指導する必要があると思われる。

また、メモの取り方を知らないため、相手の話すことは何でも書いてしまう傾向が予想される。大事なことを見極め、メモの取り方が分かるように、先行で指導する必要がある。

本時の目標

- 話す相手によって敬体と常体を使い分けることを知る。
- メモの取り方が分かる。

2 指導のポイント

- 「～は～ですか。」「～は～していますか。」という文型を使って、丁寧な聞き方ができるように先行で指導する。
- メモと文の違いがわかるように、メモの取り方(短く書く。番号や矢印(↓)などを使う。大事なことを書く。)を指導する。

- 話し相手によって発話の語尾が変わることに気づかせたいです。ただ、実際に見学に行ったとき、興味関心が強いあまり、つい普段の言葉づかいで話してしまうことがあるかもしれません。そのときは、指導したことを理解していないと判断するのではなく、子供の表情や質問内容で判断してほしいです。
- 子供が興味関心を持てるように、インタビューしたくなるような町の写真を用意するといいでしょう。「あっ、ここでこんなことを聞きたいな。」と思わせるような写真を見せることで、子供の知的好奇心が高まりますよ。

3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.学習課題について話す。 めあて 「きいて、メモしてみよう。」	- インタビューの仕方とメモの取り方を学習することを知らせる。 - 教師が町の人になってインタビューを受ける。	
9分	2.インタビューごっこをする。 町の人（教師）にインタビューする。 インタビューの内容の例 「なんで、店があつまってるの？」 ↓ 「どうして、店が集まっているのですか。」	- インタビュー内容を書いた紙は、敬体ではなく常体で書いておき、相手によって話し方を変えることを掴ませる。 - 左の授業の流れに書いてあるように、丁寧な質問の仕方に気づかせる。 ▼インタビュー内容を考える時間がかかるようであれば、時間を短縮するため、インタビュー内容の書かれた紙を用意しておく。	町の風景写真 インタビュー内容を書いた紙
10分	3.メモの取り方を理解する。 - 町の人役の教師が話すことを聴いて、メモを取る。 <話す内容> ここは人がたくさん集まるから、ここに店をつくったよ。たくさんの人が買ってくれるように、他の店より値段を安くしているよ。 - メモを交換して、大事なことは何かを確認する。 - お手本メモと比べる。 ◎こんなふうにメモするよ！ ・人がたくさんくるから。 ⓪ ねだん → やすい - 実際に町探検に行ったときに、学習したことを活用してメモを取るように確認する。	- メモができるように、子供の聴きとれる音読速度で、1回だけ話す。 - 重要な内容については、特にゆっくりはっきりと話すことで、大切さに気付かせる。 - 大事だと思ったことを、簡単に書くように指示してから、メモを取らせる。 - メモを子供同士で交換し合って、どんな風にしたのかを確認させる。 - 大事な内容が簡潔に書かれているか確認して、良いメモの例文と比べさせる。 - 簡潔にメモを取るためには、記号や矢印も活用すると良いことを知らせる。 例えば 「くふう」は ⓪ と省略する。 「→」を活用して「ねだんをやすくする。」を簡単に書く。	メモ用紙 掲示用の良いメモ

2年生活② 「あしたへ ジャンプ」

1 課題と目標

想定される課題

資料や記録を、新聞やポスター等にまとめる方法の経験が不足していると思われるので、資料や記録を整理して新聞としてまとめる方法を先行で学習することによって、授業での活動をスムーズに行えるようにしたい。

本時の目標

- 見出しの書き方がわかる。
- 読み手がわかる文を書くことができる。

2 指導のポイント

- 事前に、自分が頑張ったことと、来年挑戦したいことを考えさせておく。そこで本時の活動にすぐ入ることができる。本時の目的は書く内容を考えることではないので、ここで時間を取ることはしない。メモを短冊に書かせて準備する。
- 事前準備として新聞のひな型を作成して、そこに文を埋め込んでいく形をとる。
- 語彙：つなぎ言葉：はじめに、きょ年、今年は、つぎに、今は

- 指導時間が20分と限られているので事前予告をしておき、すぐに本時の活動に入ることができるようにします。本時の目的は書く内容を考えることではないので、ここで時間を取ることはしない方が良いと思います。前時に予告しておくことで可能だと思います。
- 子供に見せる新聞は、大人が読む新聞ではなくて「●●小学生新聞」のような子供向けの新聞を使用すると理解しやすいと思います。



3 展開 (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い子供への指導、▼日本語が弱い子供への指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1.学習課題について話す。 めあて 「しんぶんをつくろう。」	事前に準備したメモをもとに、新聞を作ることを知らせる。	新聞
9分	2.新聞の小見出しの書き方を知り小見出しをつける。 - 小見出しの意味を知る。 - 小見出しの書き方を知る。 以下 教師作成の新聞記事(例) はじめは、二重とびが5回しかできませんでした。夏休みにれんしゅうしたので、20回とべるようになりました。たくさんとべるようになって、すごくうれしいです。 - 一番伝えたいことを考えて、小見出しを書く。	- 教師が自作した新聞を見せて、小見出しの意味を知らせる。 - 教師が新聞の内容を音読する。子供に小見出しをどのように書いたらよいかについて意見を出させ、考えさせる。 - 小見出しは、自分が書きたいことの中で一番伝えたいことを簡単に書くことに気づかせる。	教師の自作新聞 子供が書き込める新聞のひな型 プリント
10分	3.見出しとメモをもとに、新聞記事を書く。 はじめの様子と今を比べて、何がどのように変わったのか、読み手に伝わるように書く。	- 時間や順序を表すつなぎ言葉を、カードにして提示することにより、成長の様子に合わせて使えるようにする。そのために、掲示するときには、順序のはじめを表すことば、次につながるような言葉、結末を表すときに用いられる言葉というように、時系列に沿って並べる。 - 何がどうしたのか、何をどのようにしたからできるようになったのかを、明確に書けるように以下の文型を提示して支援する。 「はじめは、～は～でした。～したので、～できるようになりました。」	つなぎ言葉のカード

日本語補習クラスのための学習活動案集
～台北日本人学校の実践から～

2019年12月

編著者 ● 在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業
AG5 運営指導委員

発行者 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団
理事長 中村 雅治

連絡先 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団内
AG5事務局
〒105-0002
東京都港区愛宕一丁目3番4号
愛宕東洋ビル6階
E-MAIL : ag5@joes.or.jp
TEL : 03-4330-1352
FAX : 03-4330-1355

印刷所 ● 株式会社トック企画



公益財団法人

海外子女教育振興財団

Japan Overseas Educational Services